

「島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の今後のあり方」検討結果報告書

(平成26年2月 / 島根県立大学法人改革検討委員会)

本報告書の「2. 現状と課題 (2) 公立短期大学の再編状況」(p5・p6)において、「4 大化決定」と表記しました名寄市立大学短期大学につきましては、正しくは、「設置者が検討準備会議を設置した」段階であり、「4 大化検討中」とすべきでした。お詫びして、訂正いたします。

島根県立大学法人改革検討委員会委員長

副理事長 小 池 律 雄

定例記者会見資料



公立大学法人
島根県立大学

○日 時	平成26年4月10日(木) 13時30分～
○会 場	島根県立大学 本部棟2階 会議室
○会見者	本田雄一 理事長・学長
○会見項目	<p>【3キャンパス共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の今後のあり方について……………[資料1] ・平成26年度計画重点項目について……………[資料2] ・平成26年度当初予算について……………[資料3] <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度海外企業研修報告会の開催について……………[資料4]
○資料提供項目	<p>【浜田・出雲キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度公開講座の開催について……………[資料5] <p>【浜田キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NEARセンター市民研究員の募集及びNEARセンター交流懇談の集いの開催について……………[資料6] ・平成25年度国際交流報告書について……………[資料7] <p>【松江キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センターオープニング記念講演について……………[資料8]
○行事予定	<ul style="list-style-type: none"> ・地連 Café 【浜田キャンパス】……4月25日(金) ・木野 茂客員教授特別講義 【出雲キャンパス】……5月7日(水) ・しまね地域共生センターオープニング記念講演【松江キャンパス】……5月14日(水)

※会見及び資料提供に関する問い合わせは、資料に記載されている担当者あてにお願いします。
なお、行事予定の問い合わせは、以下のとおり、お願いします。

浜田キャンパス 総務課 TEL 0855-24-2200
出雲キャンパス 管理課 TEL 0853-20-0200
松江キャンパス 管理課 TEL 0852-26-5525



※次回の定例記者会見は 平成26年5月16日(金) 13:30から開催予定です。

マスコットキャラクター「オロリン」です。

島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方について（大学試案）

平成 26 年 4 月 10 日 公立大学法人島根県立大学

1. 経過

今後、全国的に 18 歳人口が減少していくこと、ほとんどの公立短期大学が 4 年制大学へ移行していること、松江キャンパスでは近年、入学志願者が減少傾向にあること、県外の 4 年制大学に流出している受験生を留めるため、県内に多様な 4 年制の学部学科が必要であること、さらには、「栄養士」「保育士」に対する社会的要請が変化していることなど、様々な状況の変化を踏まえ、公立大学法人島根県立大学では、島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方について検討を行った。

具体的には、法人内部の法人改革検討委員会において、「管理栄養士」「幼稚園教諭・保育士」の採用状況アンケート調査、短期大学を 4 大化した他県公立大学の視察調査、県内関係機関・団体に対するヒアリング調査を実施し、8 回にわたる同委員会の議論を経て、平成 26 年 2 月に「島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方検討結果報告書」（大学試案）を取りまとめたところである。

この報告書を踏まえて、島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方について、公立大学法人島根県立大学としての考え方を以下のとおり取りまとめた。

2. 今後のあり方（大学試案）

（1）3 学科全ての 4 大化が必要

島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の 3 学科全てを 4 年制大学化し、4 大志向が高まっている県内受験生に対し、県東部に新たな進学先の選択肢を提供するとともに、社会的な要請に応えられる質の高い人材を地域に供給していくことが必要である。（「別紙」参照）

（2）栄養関係学科の検討にあたっての留意点

4 大化にあたって、栄養関係学科については、島根県における「看護」と「栄養」領域の保健・医療連携が可能になるとともに、教育内容の質の向上がより期待できること、県の経費負担がより軽減されることなどから、出雲キャンパスへの移転も視野に入れながら検討すべきと考える。

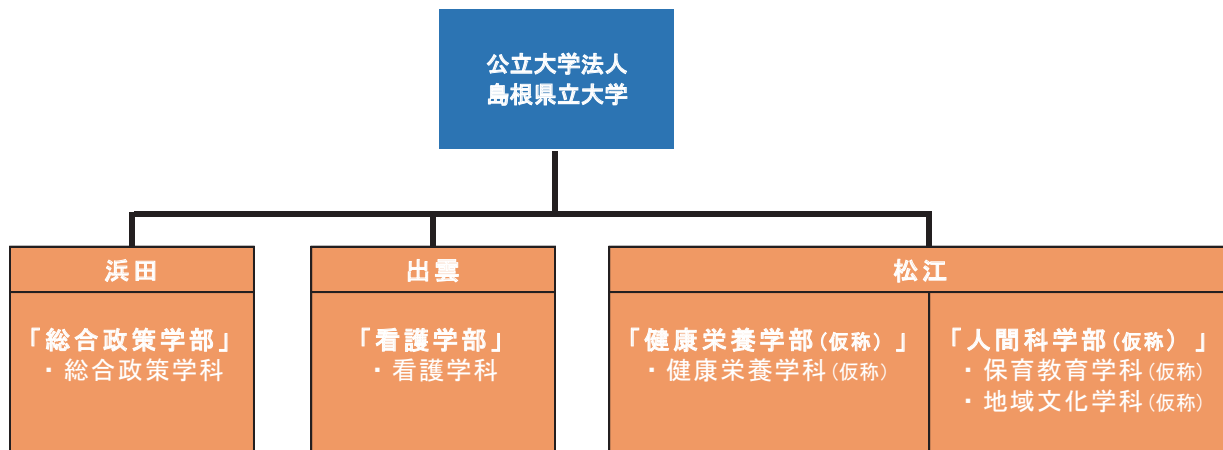
3. 今後の対応

公立大学法人島根県立大学としては、今後この大学試案に対する県民の声を広く聴取し、その意見を添えて、当法人の設立団体である県に対してその検討を要望する。

県においては、可能な限り早期に松江キャンパスのあり方を決定されることを期待する。

松江キャンパス 4 大化構想（大学試案）

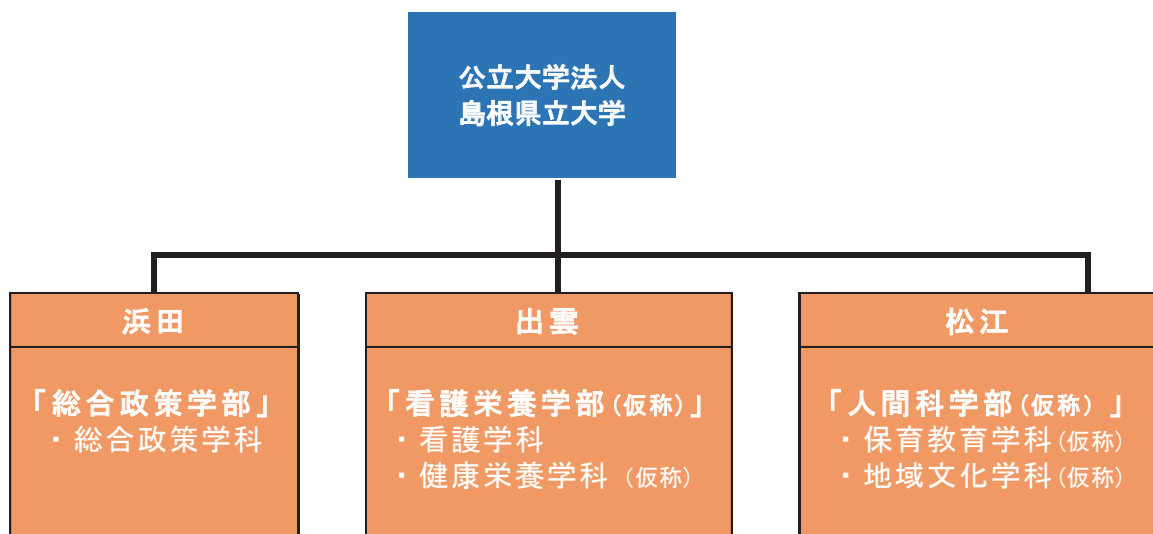
■案 1（松江キャンパスで全学科を 4 大化する場合）



区分	健康栄養学部（仮称）	人間科学部（仮称）	
	健康栄養学科（仮称）	保育教育学科（仮称）	地域文化学科（仮称）
定員	40名	50名	70名
人材養成のねらい	<p>高齢化先進県である島根県において、健康寿命の延伸を目的とする全世代の健康・栄養教育は不可欠である。地域住民の栄養状態等に応じた高度の専門技術を用いて健康増進・生活習慣病の予防を支援し、あわせてQOLの向上に寄与する能力を有する管理栄養士を養成する。</p> <p>また、地域の「食育」「地産地消」「食文化」を支える栄養教育者として、栄養教諭を養成する。</p>	<p>0歳から8歳までの発達は、その後の学力・体力・社会性を支える重要な基盤となる。乳幼児期から小学校低学年までの発達に特化した保育者・教育者養成カリキュラムを組み、保育教諭（保育士・幼稚園教諭）、小学校教諭、司書教諭を養成する。</p> <p>さらに少子高齢化社会の生涯学習を豊かに支える「読書教育」「英会話教育」関連科目群を修得して、地域社会で新たに求められる子育て支援、保護者指導に生かす。</p>	<p>文化を知識として体系的に学び、資源として国際的・国内的に生かせば「観光」となり、地域の生活者にかせば「まちづくり」となる。「神話」「伝承文化」「世界遺産」「無形文化遺産」を有する山陰地方をフィールドとして、文化を資源として生かすための知識・技法を修得した人材を養成し、観光振興に資する人材を送り出す。</p> <p>また後世へ文化資源を伝える人材（学芸員・司書・社会教育主事（任用）・教員）を養成する。</p>
進路等	取得可能な資格 <ul style="list-style-type: none"> 管理栄養士 栄養教諭 食品衛生監視員 食品衛生管理者 	<ul style="list-style-type: none"> 保育士 幼稚園教諭1種 小学校教諭1種 司書教諭 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行業務取扱管理者 司書 司書教諭 中学校教員（国語・英語） 社会教育主事 学芸員
	想定する主な進路 <ul style="list-style-type: none"> 病院 診療所 社会福祉施設 給食委託会社 食品会社 認定こども園 県市町村行政 学校 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保育所 幼稚園 認定こども園 児童福祉施設 小規模保育事業所 小学校 <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観光業務（旅行会社、交通会社、ホテル、旅館、観光店舗、NPO 等） 県市町村行政 博物館 美術館 歴史民俗資料館の学芸員 図書館 <p style="text-align: right;">など</p>

■案2（出雲キャンパスに栄養関係学科を移転する場合）

- ・平成 23 年度に、島根県病院局と島根県立大学の間で看護連携の協定が結ばれているが、現在、喫緊の課題となっている生活習慣病対策、介護予防、在宅医療・在宅介護の推進においては、専門職連携が必須とされている。島根県立中央病院の位置する出雲で、看護学科とあわせて「看護栄養学部」(仮称)を開設することにより、学生はもとより、専門職を対象とした専門職連携教育が可能となる。さらに、専門職研修・研究などでの「看護」と「栄養」領域の保健・医療連携が可能となる。
- ・栄養教諭養成においても、生活習慣病予防や病児・食物アレルギー対応等、医療領域におけるより高度な教育、保健師、養護教諭等との連携教育を行うことが可能となる。管理栄養士養成課程のカリキュラムでは、保健・医療系のカリキュラムが多く、看護学科との一体的な教育が可能となり、学生教育、専門職の更新講習などにおいても効率的、効果的な学部運営が可能となる。



「島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の今後のあり方検討結果報告書」(大学試案) に関するご意見募集について

全国的に4大化が進行する中で短期大学である松江キャンパスは将来どうあるべきかについて、公立大学法人島根県立大学では1年間の検討を行ってきました。

この度、その検討状況を大学試案という形で取りまとめましたので、広く県民の皆様からのご意見を募集します。

1 意見募集の対象

「島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の今後のあり方検討結果報告書」(大学試案)について

[参考資料]

- ・「島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方検討結果報告書」
(大学試案)
- ・「島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方検討結果報告書」
(大学試案) (概要版)

2 募集期間

平成26年4月10日(木)から平成26年5月9日(金)まで(必着)

3 閲覧場所

大学試案は、大学ホームページ

URL <http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/opinion/>

のほか以下の場所でご覧いただくことができます。

- ・島根県立大学浜田キャンパス事務局
- ・島根県立大学・島根県立大学短期大学部出雲キャンパス事務室
- ・島根県立大学短期大学部松江キャンパス事務室
- ・県政情報センター(島根県庁第三分庁舎)
- ・県政情報コーナー(島根県隠岐・松江・出雲・雲南・浜田・益田各合同庁舎
および島根県男女共同参画センターあすてらす(大田市))

4 ご意見の提出方法

◆ご意見は、郵送、ファックス、電子メールのいずれかの方法でお送りください。

電話によるご意見は受け付けておりませんので、ご了承ください。

・郵送(平成26年5月9日(金)必着)

〒697-0016 浜田市野原町 2433-2 公立大学法人島根県立大学 事務局 企画調整室あて

・ファクシミリ 0855-24-2208

・電子メール opinion2601@admin.u-shimane.ac.jp

◆意見書の様式は特に定めませんが、どの項目に対する意見であるかということと、氏名(団体名)、住所(所在地)の市町村名の記載をお願いします。

別添 参考様式

「島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)の今後のあり方検討結果報告書」(大学試案) に関するご意見提出用紙

5 ご意見の反映・個人情報の取り扱い

- お寄せいただいたご意見は、最終的な大学の決定における参考とさせていただきます。個別の回答はいたしませんので、その旨ご了承ください。
- お寄せいただいたご意見の概要とそれに対する大学の考え方を、大学ホームページにより一定期間公表します。決定した内容についても、今後公表いたします。
- ただし、公表することにより個人または団体の権利その他正当な利益を害する恐れがある意見は、公表しません。また、意見を提出した個人・団体が識別される情報、または識別される可能性のある情報についても、公表しません。
- 意見の募集は、具体的な意見をいただくことを目的としていますので、賛否の結論だけを示したものや趣旨が不明瞭なものなどについては、大学の考え方をお示しできない場合があります。

お問い合わせ先

公立大学法人島根県立大学 事務局 企画調整室

〒697-0016 浜田市野原町 2433-2

TEL:0855-24-2201 FAX:0855-24-2208

HP: <http://www.u-shimane.ac.jp/foundation/opinion/>

mail: opinion2601@admin.u-shimane.ac.jp

「島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）の今後のあり方 検討結果報告書」（大学試案）に関するご意見提出用紙

- 郵送の場合 〒697-0016 浜田市野原町2433-2
 公立大学法人島根県立大学 事務局 企画調整室 まで
- ファックスの場合 0855-24-2208 まで

ご意見記入欄

※該当箇所を明記した上で、ご意見を記入してください。

お名前（又は団体名）

ご住所

電話番号

※ご意見について、不明な点がある場合、内容を確認させていただきたいので、お名前・電話番号をできるだけご記入ください。

法人改革検討委員会運営要綱

平成 22 年 2 月 8 日

(趣旨)

第 1 条 公立大学法人島根県立大学を取り巻く様々な環境が変化する中で、法人として必要な改革への取り組みを法人内部で検討するため、法人改革検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第 2 条 委員会の委員長は副理事長とし、委員は理事（副学長）、事務局長、事務局次長兼浜田キャンパス教育研究支援部長、松江キャンパス事務室長、出雲キャンパス事務室長、事務局企画調整室長、総務課長及び財務課長とする。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、法人改革検討について理事長が諮問する事項を審議する。

(会議)

第 4 条 委員会は、委員長が前条の事項について審議する必要があると認めるときに開催する。

2 委員会の議長は、委員長をもって充てる。

(招集)

第 5 条 委員会は、委員長がこれを招集する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を述べさせることができる。ただし、委員以外の者は議決に加わることはできない。

(事務)

第 7 条 委員会の事務は、事務局企画調整室において処理する。

(委任)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 22 年 2 月 8 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 22 年 4 月 5 日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年 5 月 13 日から施行する。

平成26年度計画重点項目

◆地（知）の拠点整備事業の着実な実践

島根県立大学憲章に謳う「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」の実現を目指し、平成25年度に文部科学省から採択を受けた「地（知）の拠点整備事業」の事業計画を着実に実践していく。

- 「地域と大学の共育・共創・共生に向けた縁結びプラットフォーム」事業を着実に実行する。「しまね看護交流センター」は“ワンストップサービス”の“わかりやすい相談窓口”として、受託・共同研究事業、キャンパスツアー・出前講座を進め、「しまね地域共生センター」は、地域志向の共同研究の推進とその成果の公表を行うとともに、学内競争的研究費等を用いた実用化研究に取り組む。(No. 46～48, 53, 54, 57)

【島根県立大学】

- | | | |
|--------|---|---|
| (全体) | 〔 | ・第2回全域フォーラムの開催
・地域ニーズ調査活動の実施 |
| (教育) | 〔 | ・「しまね地域共生学入門」シラバス作成（短期大学部と共通）
・しまね地域マイスター認定制度の構築 |
| (研究) | 〔 | ・「しまね地域共育・共創研究助成金」の推進 |
| (社会貢献) | 〔 | ・公開講座の遠隔地受講
・学生ボランティア活動検討会の開催 |

【島根県立大学短期大学部】

- | | | |
|--------|---|---|
| (教育) | 〔 | ・「地域志向」教育連携協議会の開催
・「地域志向」シラバスにおける「地域志向科目」の説明 |
| (研究) | 〔 | ・学外研究協力者（研究者）との科目開発共同研究開始
・研究連携協議会の開催、しまね地域共生センター紀要の発行 |
| (社会貢献) | 〔 | ・公開講座のICT・情報教育システム（COC ² -Net）環境利用
・学生ボランティア活動の推進 |

◆国際交流推進体制の整備

グローバル化の進展に対応する人材を育成するため、留学生や短期語学研修生の派遣及び受け入れを推進する。また、海外大学との交流促進による教育的・学術的ネットワークの拡大や地域の国際化への貢献等を目的とした全学センター（国際交流センター（仮称））の新設に向けた準備を進める。

- 国際交流センター（仮称）の準備委員会を中心に、速やかな設置に向けて制度設計を行う。(No.65)
- 「異文化理解研修」等への学生参加の促進、新たに留学協定を締結したワナチ・バレー・カレッジへの留学生の派遣、蔚山大学校へのダブルディグリー派遣学生のフォロー並びに同派遣候補生の語学力向上の取組み等を行う。(No.61, 62)
- 英語圏の学生を対象とした短期語学研修の実施を検討する。(No. 60)

◆学生確保、学生支援の充実強化

今後、18歳人口が急速に減少していくことを見据え、学生募集活動を強化するとともに、社会人学生の取り込みを拡大していくための取り組みをおこなう。また、在学生への支援として学生生活に困難を来す学生への対応を適切におこなう。一方で、就職支援については、変化する情勢を的確に分析し、遺漏のない対応策を講じるとともに、各キャンパスの特徴に応じた支援策を展開する。

- 志願者数の増加につなげるため、学部・大学院・短期大学部それぞれの状況に応じた学生募集活動に取り組む。社会人の受け入れ促進のため、総合政策学部では「科目等履修」や「聴講」制度等の積極的な周知・活用を行い、大学院では6限目や7限目の授業時間を時間割上に配置するなど、柔軟な時間割編成を行う。出雲キャンパスでは県内看護職のためのキャリア支援事業を企画し、松江キャンパスでは、資格取得支援に関わるリカレント講座を開催する。(No. 3, 11, 12)
- 浜田キャンパスでは、学生とのコミュニケーションの活性化のため、教職員向けの学生対応の向上に関する研修会を実施する。障がいのある学生への支援として、出雲キャンパスでは、出願時の対応方法の検討（特に身体障がい）を行い、松江キャンパスでは、体系的な支援組織・支援内容の構築と機能強化、支援に関する情報の共有化に取り組む。(No.32, 34)
- 就職活動の開始時期が後倒しになることについて、情報収集、分析を行い、対応策を明らかにする。また、浜田キャンパスでは、公務員受験対策として「公僕学舎」の取り組みを行い、出雲キャンパスでは、卒業生・修了生の就職先と連携して、卒業生・修了生に対するキャリア支援を強化する。松江キャンパスでは、特に総合文化学科の就職決定状況が厳しいため、キャリア意識の早期形成、就職活動指導の徹底、学外就労支援機関や保護者との連携強化に努め、就職決定率の向上を図る。(No.35, 37)



平成26年度公立大学法人島根県立大学当初予算（案）の概要

I 予算編成の考え方

公立大学法人島根県立大学は、平成19年度に3大学の統合により設立し、「島根県立大学憲章」に掲げる理念に従い教育研究の活性化及び地域貢献、国際交流等の推進に全学を挙げて取り組んできました。

平成26年度は、第2期中期計画期間（平成25年度～平成30年度）の2年目であり、これまでの取組の成果を継承し、第2期中期計画の達成に向けた取組を着実に進める年度となります。

一方で、法人運営の効率化を促す趣旨から平成26年度以後も引き続き運営費交付金の減額が継続される見込みであり、自律的な運営のための経費削減努力、効果的な事業執行、自己財源の確保等はますます必要となっています。

このため、平成26年度予算案は、平成26年度計画の重点分野（①地（知）の拠点整備事業の着実な実践、②国際交流推進体制の整備、③学生確保、学生支援の充実強化）を中心とする同年度計画の着実な実施に必要な事業に対し、重点的かつ効果的に措置することを基本方針として編成を行いました。

II 当初予算の概要

1. 事業費総額

事業費総額は、32億6百万円で、前年度予算（30億75百万円）に比べ、4.2%増（1億31百万円増）となっています。

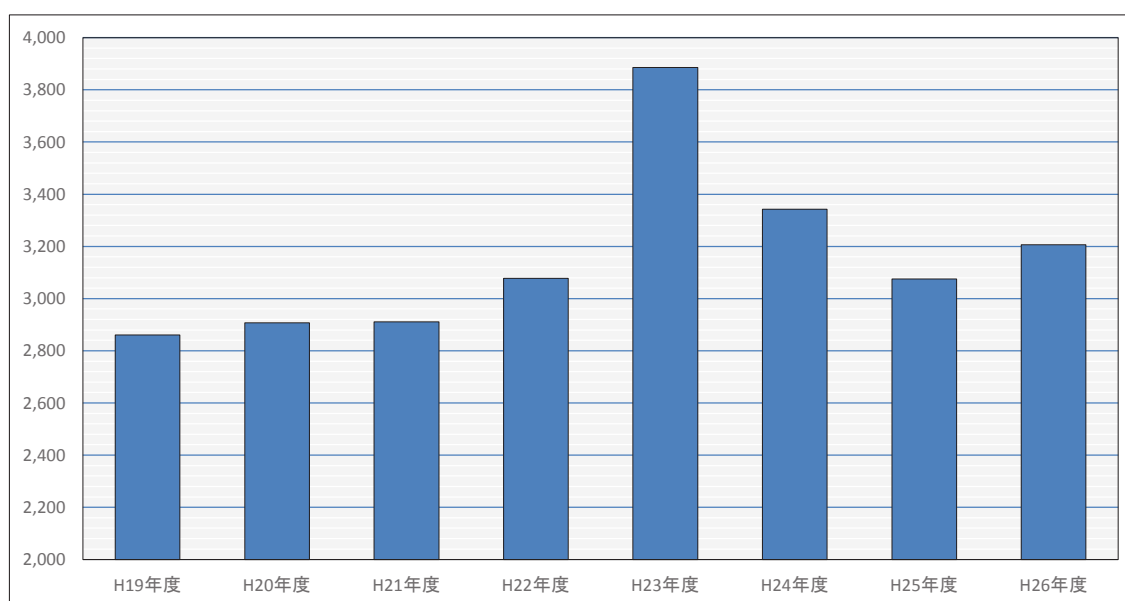
(単位:千円、%)

区 分	平成26年度当初	平成25年度当初	増 減	増減率
予算規模	3,206,120	3,075,479	130,641	4.2

【参考 当初予算規模の推移】

(単位:百万円)

H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
2,860	2,907	2,911	3,077	3,885	3,342	3,075	3,206

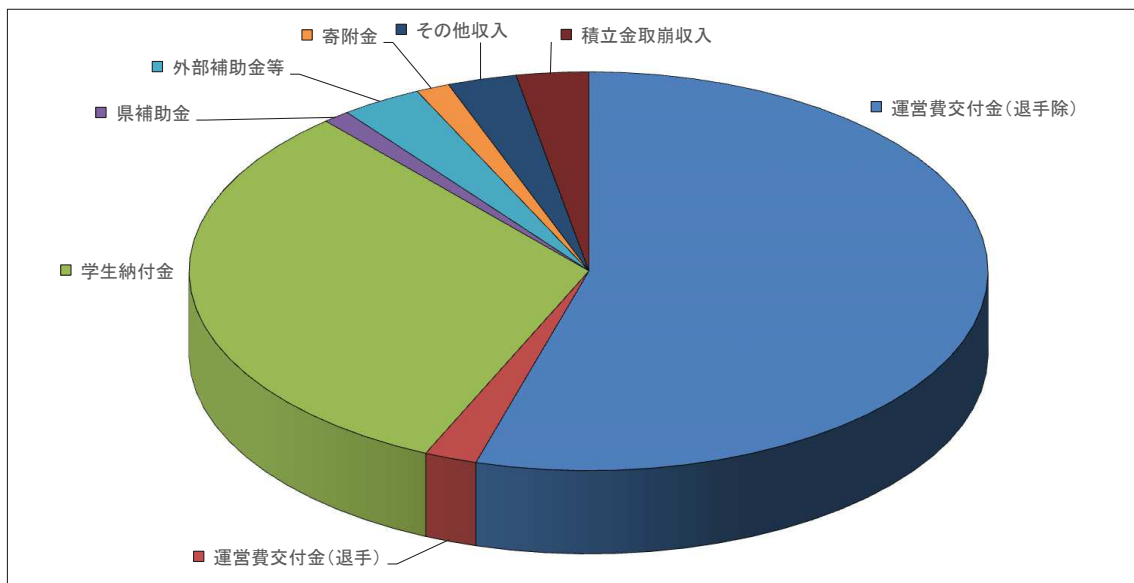


2. 収入予算

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度当初		平成25年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
運営費交付金(退手除)	1,749,159	54.6	1,764,860	57.4	▲15,701	▲0.9
学生納付金	1,021,600	31.9	999,993	32.5	21,607	2.2
県補助金	35,154	1.1	102,393	3.3	▲67,239	▲65.7
外部補助金等	104,953	3.3	58,573	1.9	46,380	79.2
寄附金	43,500	1.4	47,000	1.5	▲3,500	▲7.4
その他収入	89,584	2.8	85,768	2.8	3,816	4.4
計	3,043,950	94.9	3,058,587	99.5	▲14,637	▲0.5
運営費交付金(退手)	68,248	2.1	16,892	0.5	51,356	304.0
積立金取崩収入	93,922	2.9	0	0.0	93,922	皆増
合 計	3,206,120	100.0	3,075,479	100.0	130,641	4.2

- 運営費交付金と学生納付金の合計で収入全体の88.6%を占めています。
 - 運営費交付金（退職手当除き）は、効率化（▲1.0%）、標準収入の見直し等により、総額で16百万円減（▲0.9%）となっています。
 - 学生納付金は、四大化した出雲キャンパスの学年進行等により、22百万増（+2.2%）となっています。
 - 県補助金（大規模修繕等の特殊要因経費に対し10/10補助）は、通常事業分（浜田キャンパス講堂タイル修繕工事及び松江キャンパス音楽棟各部屋内装修繕）を予定し、67百万円減（▲65.7%）となっています。
 - 外部補助金等は、文部科学省教育関係補助金等を計上し、46百万円増（+79.2%）となっています。
 - 寄附金は、島根県立大学未来ゆめ基金事業及び旧北東アジア学術交流財団寄附金事業に充てるための収入を計上し、4百万円減（▲7.4%）となっています。
 - 積立金取崩収入は、前中期目標期間繰越積立金を財源として実施する事業に充てるための収入として計上し、94百万円増（皆増）となっています。
- ※目的積立金充当事業・・・教育向上、学生支援、研究支援、学生確保、業務改善、環境整備等に資する事業



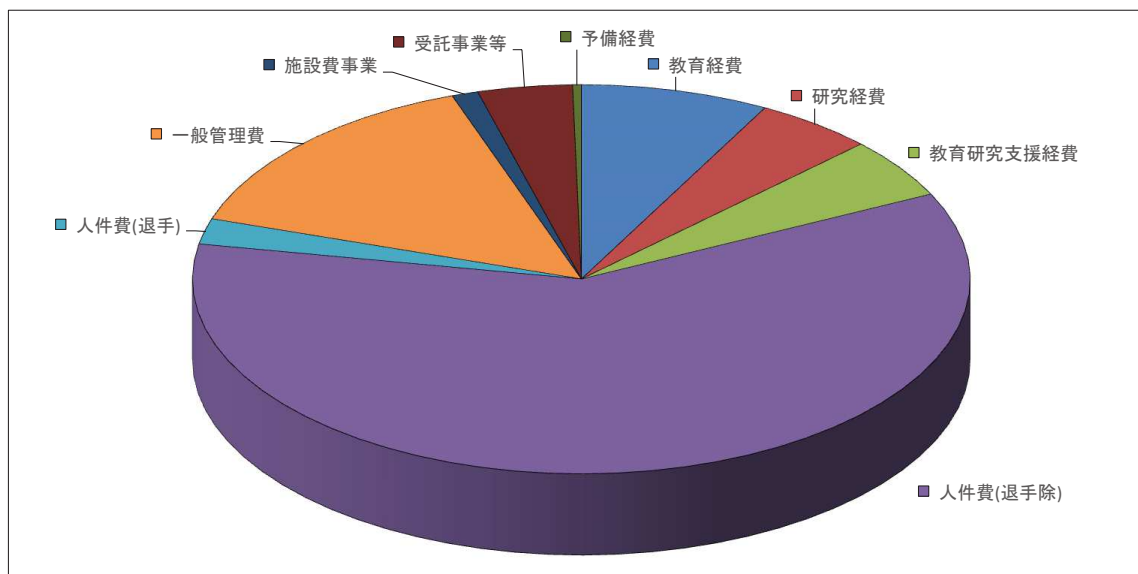
3. 支出予算

(単位:千円、%)

区 分	平成26年度当初		平成25年度当初		増 減	増減率
	予算額	構成比	予算額	構成比		
教育経費	251,921	7.9	248,886	8.1	3,035	1.2
研究経費	158,744	5.0	173,607	5.6	▲14,863	▲8.6
教育研究支援経費	160,709	5.0	166,481	5.4	▲5,772	▲3.5
人件費(退手除)	1,926,297	60.1	1,889,227	61.4	37,070	2.0
一般管理費	467,723	14.6	402,066	13.1	65,657	16.3
施設費事業	35,154	1.1	85,359	2.8	▲50,205	▲58.8
受託事業等	126,383	3.9	81,004	2.6	45,379	56.0
予備経費	10,941	0.3	11,957	0.4	▲1,016	▲8.5
計	3,137,872	97.9	3,058,587	99.5	79,285	2.6
人件費(退手)	68,248	2.1	16,892	0.5	51,356	304.0
合 計	3,206,120	100.0	3,075,479	100.0	130,641	4.2
特定財源支出除き	2,882,413		2,875,190		7,223	0.3

- 教育経費は、海外留学奨学金の拡充、全学国際交流センター（仮称）計画検討事業等により、3百万円の増を見込んでいます。
- 研究経費は、神々の国しまねプロジェクト～国際学術シンポジウム2013関係経費の減等により、15百万円の減を見込んでいます。
- 教育研究支援経費は、情報システムの保守管理経費の見直し等による経費節減により6百万円の減を見込んでいます。
- 人件費（退職手当を除く。）は、管理職手当支給対象者の追加（全学運営組織副センター長）、昇給及び昇格に伴う増、任期付事務職員の一般職員登用等により、37百万円の増を見込んでいます。
- 一般管理費は、法人広報誌の作成等広報活動経費の増、施設管理経費の増等により、66百万円の増を見込んでいます。
- 施設費事業は、県補助金を財源とした大規模修繕等の事業を計上しています。
- 受託事業等は、旧北東アジア地域学術交流財団寄附金事業費40百万円を計上し、地（知）の拠点整備事業の採択による増等により、45百万円の増を見込んでいます。
- 予備経費は、年度途中の緊急的な支出に備えるため、11百万円を計上しています。
- 支出総額は、1億31百万円増（+4.2%）となっていますが、特定財源による支出を除くと28億82百万円で、前年度に比べ7百万円増（+0.3%）となっています。

※特定財源：運営費交付金(退手)、県補助金、外部補助金、受託研究等収入、旧NEAR寄附金、積立金取崩収入



4. 事業概要

重点分野

1. 地(知)の拠点整備事業の着実な実践

- (1) 地(知)の拠点整備事業(全C)〈継続〉 56,983千円
- 平成25年度に文部科学省により国庫補助事業として選定された「地(知)の拠点整備事業」について、平成29年度までの事業期間の2年目の事業として、計画に基づき、地域のニーズ(要望)と大学のシーズ(資産)のマッチング(=縁結び)、3キャンパス共通科目「しまね地域共生学入門」の準備、松江キャンパスにおける「地域志向カリキュラム」の開講及び評価等、事業の本格実施に向けた取組を実行する。

2. 国際交流推進体制の整備

- (1) 全学国際交流センター(仮称)計画検討事業(浜田C)〈新規〉 501千円
- 全学国際交流センター(仮称)の設置に向け、交流先大学、留学プログラム、留学生支援内容等の検討、同センター設置のための制度設計等を行う。
- (2) JCSOS緊急事故支援システム加入(法人本部)〈新規〉 775千円
- 学生の海外派遣に係るサポート体制を強化するため、海外派遣中の緊急事態発生時に情報収集等のサービスを提供するNPO法人海外留学生安全対策協議会(JCSOS)に加入する。
- (3) 海外留学・海外研修等に係る奨学金(全C)〈拡充〉 22,022千円
- 本学の特色である「国際的な視野を持った人材養成」実現のため、奨学金制度を継続・拡充し、学生の海外留学、海外研修等に対する支援の強化を図る。
- ① 海外留学奨学金(浜田C) ※島根県立大学未来ゆめ基金充当予定事業
- 学長の許可を受けて協定留学(ダブルディグリー、交換留学、派遣留学)する学生に奨学金を支給する。
※新たな派遣先(韓国培材大学校、中国寧夏大学、米国ワナチ・バレーカレッジ) ※(H25実績) 8名
- ② 海外研修奨学金等(全C)
- 異文化理解研修、海外企業研修等に参加する学生に奨学金を支給する。 ※(H25実績) 154名
- (4) CWUとの交流25周年記念誌刊行(松江C)〈新規〉 941千円
- 平成27年度にCWU(米国セントラルワシントン大学)との交流開始25周年を迎えるのに先立ち記念誌を作成する。(平成27年度に記念事業予定)

3. 学生確保、学生支援の充実強化

- (1) オープンキャンパスの充実(全C)〈拡充〉 6,960千円
- 出雲キャンパスにおけるオープンキャンパス2回開催等、各キャンパスのオープンキャンパス開催内容の充実を図るとともに、オープンキャンパスの参加者増加に資する広報活動を集中的に実施する。
- (2) 別科志願者確保に係る看護師養成所訪問等(出雲C)〈新規〉 1,026千円
- 本学看護学部からの入学者のない平成27年度別科助産学専攻の志願者確保のため、中四国各県の看護師養成所への訪問、別科を紹介するDVD及びパンフレットの作成を行う。
- (3) 授業料奨学制度(全C)〈拡充〉 90,604千円
- 意欲ある学生への学修支援を行うために、経済的支援としての学修支援奨学金、入学時奨学金、成績優秀者奨学金等を学生に給付する。
- (4) 公務員試験対策講座実施支援事業(浜田C)〈拡充〉 2,260千円
- 試験対策専門講座の実施により、公務員試験合格をめざす学生の支援を行う。
(島根県立大学後援会に対する補助) ※チューター等謝金、WEB講座等受講料助成
- (5) キャリア支援プログラム(看護実践研修等)の実施(出雲C)〈継続〉 647千円
- 卒業後の進路を検討する機会や看護職としての接遇について学ぶ機会を提供するため、離島、中山間地域での看護研修やマナーアップ講座を実施する。

※重点分野に対応する主な事業を掲載

重点広報事業

1. 大学情報の発信

- | | |
|--|----------|
| (1) 法人広報誌作成(法人本部)〈拡充〉 | 6,229 千円 |
| ・平成25年度創刊した法人広報誌「オロリン」を定期的に発行し、地域へ大学情報を発信するとともに、送付先を県外の高等学校に拡大し、広報の充実を図る。
※発行予定(年2回) ※印刷部数(43,000部) ※配布先(県、市町村、高等学校、保護者等) | |
| (2) 広報基盤整備事業(法人本部)〈新規〉 | 2,825 千円 |
| ・大学情報の発信に係る教職員の意識の向上のための研修会の開催及び広報スタンドの公共施設等への配置を行い、広報推進体制の整備を図る。 | |
| (3) ホームページ改修検討委員会設置(法人本部)〈新規〉 | 258 千円 |
| ・ホームページの改修(トップページ、スマートフォン対応等)について、委員会を設置して検討する。 | |

2. 学生募集広報の充実

- | | |
|---|---------------|
| (1) オープンキャンパス広報充実(法人本部)〈新規〉 | 2,892 千円 (再掲) |
| ・オープンキャンパスの参加者増加に資する広報活動を集中的に実施する。
※CM制作、放送(民放3社、CATV)、新聞広告(地元紙) | |
| (2) 別科助産学専攻紹介DVD作成(出雲C)〈新規〉 | 432 千円 (再掲) |
| ・本学看護学部からの入学者のない平成27年度別科助産学専攻の志願者確保のため、別科を紹介するDVDを作成する。 | |
| (3) 大学案内別冊Q&A集作成(法人本部)〈新規〉 | 567 千円 |
| ・高校訪問等の際に活用するため、受験生、保護者、高校教員等から寄せられる質疑及びそれに対する回答を取りまとめたQ&A集を作成する。 | |

その他主要事業

1. 教育・学生支援

- | | |
|--|----------|
| (1) 大学院生学会発表等旅費等支援事業(浜田C)〈継続〉 | 1,207 千円 |
| ・大学院生による研究成果の発表、学会参加を奨励し学術研究を促進させるため、大学院生が学会発表、学会参加する際の旅費等を助成する。 | |
| (2) 「島根の地域医療」フィールドワークの実施(出雲C)〈拡充〉 | 1,543 千円 |
| ・2年次生が受講する科目「島根の地域医療」において、離島、中山間地域をはじめとする地域医療の現状を学ぶため、グループ単位でのフィールドワークを実施する。 | |
| (3) 助産学新カリキュラム対応備品整備(出雲C)〈新規〉 | 1,117 千円 |
| ・助産学教育で使用するシミュレーターの更新及び新規整備を行う。
※妊婦腹部触診モデル(2台:更新)、布製胎児モデル(2セット:新規) | |
| (4) 学部公衆衛生看護学教育関連備品整備(出雲C)〈新規〉 | 2,679 千円 |
| ・公衆衛生看護分野における演習及び実習で使用する備品の整備を行う。
※乳児モデル人形(4体:新規)、新生児モデル人形(4体:更新)
※乳幼児体重計、身長計(各5台:追加整備)等 | |

(5) 「おはなしレストラン」事業(松江C)〈継続〉	8,264 千円
・絵本の読み聞かせを通じた学生の人間力育成のため、絵本文庫の運営、おはなしシェフの養成及び広く県民を対象とした読み聞かせ活動を実施する。	
(6) 学生地域ボランティア活動推進事業(全C)〈継続〉	650 千円
・学生が地域ボランティア活動等に安心して参加することができるよう、活動中の不測の事態に備えるための保険料を大学が負担するとともに、窓口機能の強化、学生との意見交換会の開催等を行い、学生ボランティア活動の推進を図る。	

2. 研究

特許の更新及び産学官連携事業(松江C)〈新規〉	486 千円
・平成23年度登録の特許2件の更新及び実用化に向けた情報提供、情報収集等を行う。 ※更新手数料、パンフレットの作成、臨床研究意見交換の実施等	

3. 県特殊要因経費補助金(大規模修繕等) 35,154 千円

①浜田C: 講堂タイル修繕工事	22,086 千円
②松江C: 音楽棟各部屋内装修繕	13,068 千円

4. 旧北東アジア地域学術交流財団(旧NEAR財団)寄附金事業 40,000 千円

①北東アジア学研究プロジェクト事業	5,500 千円
②西周プロジェクト事業	700 千円
③共同プロジェクト研究助成事業	6,500 千円
④学術図書出版助成事業	2,000 千円
⑤研究員等招へい派遣助成事業	1,000 千円
⑥地域貢献プロジェクト助成事業	3,900 千円
⑦国際学術交流事業	3,805 千円
⑧交流県留学生等教育支援事業(奨学金、語学研修)	7,300 千円
⑨大学院留学生教育支援事業(奨学金、語学研修)	8,095 千円
⑩国際文化交流促進事業	1,200 千円

平成 26 年 4 月 10 日
 島根県立大学（浜田キャンパス）
 キャリア支援室
 担当者：柳井・坂田
 電話：0855-24-2202

平成 25 年度海外企業研修報告会の開催について

1. 海外企業研修について

海外企業研修は、国際化の進む社会の様々な分野で活躍できるグローバルな人材の育成を目指し平成 23 年度から実施しています。グローバルに展開する企業への訪問、現地大学生との交流を通じて、国際的視野の獲得と国際協調の精神を養う機会を提供します。

平成 26 年 2 月にインド共和国コース、3 月に大韓民国コースの 2 コースを実施しました。各コースに参加した学生が研修を通しての成果報告を行います。

2. 日 時 平成 26 年 4 月 22 日(火) 15:00～16:30
3. 場 所 島根県立大学 講義研究棟 1 階 中講義室 1
4. 主催者 島根県立大学キャリアセンター
5. 内 容 海外企業研修に参加した学生は、多くの刺激を受け、成長して帰ってきました。日本を外から見てそれまで気がつかなかったことに気づき、訪問国の学生との交流で、積極性・ハングリー精神に圧倒された感想などを語ります。

スケジュール

15:00	学長 挨拶	(10分)
15:10	インドコース 報告	
	PPT など使用	(20分)
	個人のコメント	(15分)
15:45	韓国コース 報告	
	PPT など使用	(20分)
	個人のコメント	(5分)
16:10	Q&A	(20分)

6. 出席者 両コース研修参加学生
7. 参加方法 自由参加
8. 海外企業研修実施日程及び参加学生内訳
- インド共和国コース：平成 26 年 2 月 23 日(日)～3 月 1 日(土)の 7 日間
 15 名【浜田 C 13 名(3 年 1 名、2 年 6 名、1 年 6 名)、松江 C 1 年 2 名】
- 大韓民国コース：平成 26 年 3 月 9 日(日)～3 月 14 日(金)の 6 日間
 5 名【浜田 C 3 名(2 年 3 名)、松江 C 1 年 2 名】

島根県立大学

～躍動するアジアの最前線へ～

インド共和国・大韓民国の2コース 海外企業研修報告会



報告会日程について

- ・日程 : 平成**26**年**4**月 **22** 日(火) **4**限 (**15:00**～**16:30**)
- ・場所 : 島根県立大学 浜田キャンパス 中講義室 1
- ・内容 : ①学長挨拶②事業の概略説明③学生による研修報告(各コース報告・質疑応答)

※どなたでもご自由にお越しください(予約不要)

研修の概要

1～3年を対象に、企業訪問・大学訪問をおこなう「海外企業研修」を実施しました。経済発展の著しいBRICsの一翼であるインド共和国(研修期間:平成26年2月23日～3月1日)、日本の半分の人口にもかかわらず近年急成長を遂げた大韓民国(研修期間:平成26年3月9日～3月14日)の2コースに分かれて訪問しました。グローバルに展開する企業への訪問、また現地大学生との交流を通じて、国際的視野の獲得と国際協調の精神を養ってきました。学生達が肌で体感した様々な衝撃を発表いたします。

・主な訪問先等

<インド共和国コース:参加学生15名(浜田C:13名 松江C:2名)>

日印ソフトウェア(日系IT企業)/Infosys(インド最大級IT企業)/TOYOTA(製造業)/

Mind Tree(インド中堅IT企業)/IIM(インド経営大学院)/Alliance University(大学)/Acharya Institute of Management&science(大学)

<大韓民国コース:参加学生5名(浜田C:3名 松江C:2名)>

Hana Tour(旅行代理店)/UNIQUE整形外科/時事日本語学院/日本観光新聞/JMスターエンターテインメント(韓流芸能事務所)/L&Kロジックコリア(ゲームコンテンツ開発)/西大門区庁(観光客誘致に関するプレゼンテーション開催)/柳韓(ユハン)大学

<問い合わせ先>

島根県立大学 キャリア支援室

0855-24-2202 career_all@u-shimane.ac.jp

2014年4月10日

島根県立大学(浜田キャンパス)

地域連携課(担当者:河部)

電話 0855-24-2396

島根県立大学(浜田キャンパス)平成26年度公開講座の開催について

1. 目的

島根県立大学では、教育・研究における成果を広く地域社会に還元することをおして、「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を実現するため、今年度も公開講座を開催いたします。

2. 期間

平成26年5月7日～平成26年12月10日(詳細は別紙一覧表を参照)

3. 内容

全23講座(詳細は別紙一覧表を参照)

4. 会場

島根県立大学(浜田キャンパス)講義・研究棟 ※詳細は別紙一覧表を参照

5. 主催者

島根県立大学浜田キャンパス

6. 後援

島根県、島根県教育委員会、浜田市、浜田市教育委員会

7. 申込方法

電子メール、電話、ファクシミリ、はがきにてお申し込みください。

あて先 〒697-0016 浜田市野原町2433-2

島根県立大学 地域連携課

TEL: 0855-24-2396 FAX: 0855-24-2208

E-mail: tiiki@admin.u-shimane.ac.jp

8. 受講料

受講料は無料。

講座Ⅰ 「石見に生きる～石見の元氣人が話す」

No	講師	講座名及び概要	日時	会場
1	林 千夏 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	チエロは紡ぐ～地域と文化のハニー～ 島根県芸術文化センターグラントロフのボランティア団体の一つである「グラントロフ 弦楽合奏団」や、グラントロフ提携アーティスト「アンサンブル Flouce (フラウセ)」 等での子エロ演奏活動、おもに石見地方にて継続中です。アンサンブル Flouce に よる生演奏 (約 20 分) とともに、これまでの音楽活動や、日々大切にしている思い や願いについてお話いたします。	5月17日(土) 13:15～14:45	中講義室 3
2	石橋 留美子 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	匹見の魅力をおさずけ 縁あって(匹見)へ移住して6年。「まちづくりコーディネーター」として、情報発信 や定住対策、地域資源を活かした田舎体験、地域外の方に作業支援をしていただくホ ランティア制度の運営などを行ってきました。日々の暮らしや仕事内容、UI ターンし 地域づくりに取り組んでいる人たちを紹介し、匹見の魅力をお伝えします。	7月2日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
3	白川 和子 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	石見のモノづくり・ヒトづくり 石見地方の地域資源である石見燐や石州和紙を地元の人たちに使っていただき、ア ンソになってもらうための取り組みをしてきました。地域が元気になるために異業種の 若者のネットワークワークづくりを仕掛けました。地域の資源をブランド化して、江津なら ではおもしろくする取り組みのきっかけづくりなど。	7月9日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
4	花田 香 (NPO法人 浜田おこ し 代表理事)	おとなと子どもよりよいパートナーシップが生み出すもの 「子どものために～しあわせな未来」と、あたたか子どもを大事にしているような事 業には数多く出会う。しかし、大人がよかれと用意した物は、果たして子どもが本當 に求めることであるだろうか？ 2007年から私たちが、子どもたちが舞台鑑賞の場を 企画・運営する活動を行ってきた。その実践を垣間見ただけは、今後のまちづく りにも役立つことと思う。	11月26日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
5	木暮 善之 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	匹見わさび！ 地域ブランド復活を目指して！ わさび農家として17年間、わさびを大事に育ててきました。食べていけないのが 現状です。現状を打破すべく、匹見わさびを地域ブランドとして復活させ、加工、販 売まで、四苦八苦している実態を紹介いたします。	12月10日(水) 18:15～19:45	中講義室 3

講座Ⅱ 「地域からの国際協力～島根から世界へ、そしてグローバルへ！」

No	講師	講座名及び概要	日時	会場
6	中村 純二 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	マダガスカルから石見へ～教育の最前線から最先端へ～ 4年間の小中学校での教員生活を経て、マダガスカル教員養成校へ。2年間、現地語 マダガスカル語と公用語フランス語での授業づくりの日々。帰国後、選んだ先は、県内で 人口減少が最も激しい津和野町にある県立高校。町の未来において持続可能な発展に 高校が持つ意味。そしてマダガスカルと島根の共通点をお話ししたいと思います。	6月18日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
7	生越 大地 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	農をとおして 農業とはどんな仕事？ 土をいじり種を育てること？ 卵を与え鶏を育てること？ 大 平水たらしらして食料を作ること？ 食料とは？ 専業主婦の長男として農業を目指し、大学、 農業改良普及員を経て、2年半の青年海外協力隊活動。就職 10 年の現在は、地元 資源を生かした循環農業、農業フェスティバルを生かしたコミュニケーション作りを目指していき。	6月25日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
8	豊田 武雄 (NPO法人 アンソロジー 代表理事)	経済成長思考について考えてみよう タイ・インドネシア・ケニア・パレスチナで住民参加型地域開発の仕事をしてきました。 各国では、経済発展や近代化の中で数々の新たな社会問題が起きています。一方、 経済成長に一気に進んだ日本社会が既に去った価値観や精神性が彼らの生活の中に垣 間見られます。各国の事例やトピックスの紹介を通して、また地元 NPO 「アンソ ロジー」の活動を通して、急速に進む少子・高齢化社会に向けて、コミュニケーションのあり 方や幸福や豊かさについて一緒に考えてみたいと思います。	7月16日(水) 18:15～19:45	中講義室 3

講座Ⅲ 「世界を旅する」

No	講師	講座名	概要	日時	会場
9	ドナルド・マルヤマ (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	アメリカを旅する	各国の紹介はもちろん、旅行をするなら ここがオススメ！と、旅行の時に使え るちょっとした会話など、国際交流の 方、さながらツアーコンダクターに扮 したこと、それぞれの内容について、み なさまにご紹介いたします。	6月25日(水) 13:15～14:45	中講義室 3
10	タチアナ・クラビヴァ (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	ロシアを旅する		7月16日(水) 13:15～14:45	中講義室 3
11	王 恒 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	中国を旅する		7月23日(水) 13:15～14:45	中講義室 3
12	金 國志 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	韓国を旅する		7月30日(水) 13:15～14:45	中講義室 3

No	講師	講座名及び概要	日時	会場
13	福原 裕二 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	「たけしま」(鶴巻島)に暮らした日本人たち 竹嶋渡海禁止の「高札」(浜田市郷土資料館)「倉津屋(新門氏菩提碑)」(浜田市松原町)。 本文は「X 倉津屋」→「O 今津屋」など、今なおご浜田には、「たけしま」に縁のある 当物が存在します。それらのはず、「たけしま」の歴史の一部は、山陰地方のそれ でもあるからです。「たけしま」に行ってみよう、そんな話ができればと思います。	5月7日(水) 18:15～19:45	中講義室 4
14	松田 善臣 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	知って考えよう！ 浜田市の公共交通 人口減少やモーダリティ化の進展など、公共交通を取り巻く環境は大変厳しい状 況にあります。このままの状況が続けば、公共交通を維持し続けることは困難となり、 クルマを運転できない人の生活の定が奪われてしまうかもしれません。こうした 状況に私たちはどう立ち向かえばよいのでしょうか。まずは現状を知り、そして一緒 に考えてみましょう。	5月14日(水) 17:45～19:45	中講義室 3
15	西藤 真一 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	知ればナットク！ 浜田の鉄道史 浜田自動車道は現代の陰陽連絡において大きな役割を果たしています。しかし、明治 時代には浜田と広島を結ぶ鉄道が計画されていたのをご存知ですか。昭和 55 年まで、 一時期を除いて実際に建設工事が行われていました。今となっては幻と消えた鉄道路 線ですが、現存する遺構をたがかりに、当時の鉄道政策についてご紹介します。	5月21日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
16	村井 洋 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	美を紡ぐ心・育む心：「いさ」の構造 を読む 江戸文化の佇まいの中で育ちそれが失われてゆくことを惜しんだ哲学者丸鬼寛造は ヨーロッパ留学中に本書を執筆しました。「いさ」という独自の美意識の解明をヨーロッ パ哲学者に学んだ方法をを用いて行っています。このエッセンスを紹介し、同じくハイ テク文化に学んだファン・アールトの文化芸術論と対比させてみたいと思います。	5月28日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
17	江口 真理子 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	異文化間ビデオ会議の教育的効果 島根県立大学では 2010 年から海外の大学生と島根県立大学の学生がビデオ会議を利 用してディスカッションを行う授業を展開しています。アメリカをはじめ世界 6 国 の大学と協力して異文化理解の科目を提供しています。本講座では、ビデオ会議を用 いた異文化間交流がもたらす可能性や課題について講義します。	6月4日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
18	八田 典子 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	「景観の大切さ」について考えてみよう 「よい景観」「大切にしたい景観」とは、どのようなものなのでしょうか？ 魅力的な「景観」 は、人々の心に響く地域文化であり、住民の誇りであり、また、重要な観光資源で あります。【しまね景観賞】や【市街地の取り組み】を紹介しながら、地域特性や人々 の心情と結びつけた「景観の大切さ」について考えてみたいと思います。	6月11日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
19	瓜生 忠久 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	最近のテレビ、ドラマ制作の傾向 ～「あまちゃん」(13NHK)「半沢直樹」(13TBS) とその後～ ここ数年「テレビはなれ」が顕著となり、「テレビ各局では視聴率の低下が大きな悩み となった。そんな中で、TBS の「半沢直樹」が瞬間視聴率 40% を超え、ま た NHK 「あまちゃん」もヒットした。「テレビ」というマス・メディアの影響力を示 したことになる。これらヒット番組の特性を考え、今後の方向性を探ってみよう。	7月23日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
20	ケイン・エレナ・アン (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	シャロック・ホームズを英語で読みましょう この講座は簡単な英語で行い(高校 2、3 年生程度)、日本語での説明も対応可)、聞く・ 読むだけで楽しめる内容になっています。絵や字幕付き映画、TV ドラマを使って作者 のキャラクターや彼の生誕地エジンバラ市、主な登場人物の紹介をし、最後にシャ ロック・ホームズの短編を読みます。できれば英和・和英辞書をお持ちください。	10月8日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
21	久保田 典男 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	中小企業の経営診断～フレッシュマン・フィード・セミナーの取組から～ 中小企業の経営診断の手法にはどのようなものがあるのでしょうか。本講座では島根 県を代表する中小企業を事例に分析した大学 1 年生向けの必修科目「フレッシュマン・ フィード・セミナー」の事例から、企業の強み・弱み・機会・脅威などを分析する SWOT 分析など、中小企業の経営診断の手法を紹介いたします。	11月19日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
22	シロー・コア・ワジム (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	日本とロシアにおけるハンセン病意識の比較 50 年以上療養所で生活したロシア人シロコフエフ氏 (1928 年 - 2006 年) との 対談を元に日本人とロシア人が持つハンセン病に対する意識の相違点を比較しながら、 病を乗り越えるための要因を考える。	12月3日(水) 18:15～19:45	中講義室 3
23	村井 洋 (島根県立大学総合学芸学部 文化創造学部 文化創造学 Flouce 学芸科 担当)	海の心の歩み：シュミット「陸と海と」を中心に 「世界史の一考察」というサブタイトルをもち「わかぬアノニマ」に添えられた本 書はドイツの法学者の手になる。人類と海の交流を描いた物語である。私たちはここに「白 鯨」や「宝島」の世界を見、現代の海洋問題に関わる知見を得ることが出来ます。余 力があれば、現代の代表的海洋思想家エリザベス・マンの思想を辿ります。		

【会場】 講義・研究棟 「中講義室3」または「中講義室4」

2014年4月3日
島根県立大学（出雲キャンパス）
しまね看護交流センター
担当者：澤田・安食
電話 0853-20-0220

島根県立大学（出雲キャンパス）平成26年度公開講座の開催について

1. 目的

島根県立大学出雲キャンパスでは、「開かれた大学」として教育・研究における成果を広く地域社会に還元するため今年度も公開講座を開催いたします。

2. 期間

平成26年4月21日～平成27年1月24日まで（詳細は別紙リーフレットを参照のこと）

3. 会場

主に、島根県立大学出雲キャンパス（出雲市西林木町151）で開催します。
その他の会場については別紙リーフレットを参照のこと

4. 主催者

島根県立大学（出雲キャンパス）しまね看護交流センター

5. 内容・対象

別紙リーフレットを参照のこと

6. 出席者・参加人数

別紙リーフレットを参照のこと

7. 参加方法・参加費等

ハガキ・電話・電子メールなどでお申し込みください。受講料は無料です。
（材料費等が必要な講座もあります）

8. これまでの経緯や今回の特徴など

看護領域に限らず、市民のみなさんが興味・関心のある講座を多数開催いたします。
お申し込みをお待ちしています。

平成26年度

公開

講座

公開講座

公開講座



本学では「開かれた大学」を目指して、地域の皆さんとの交流を大切にしたいと考えています。本年度は左記のような内容で公開講座を開催します。どうぞご参加ください。

- 第1講座**
笑いヨガ体験会
島根県男女共同参画センター「あすて5す」(大田市)
島根県立大学出雲キャンパス215講義室
- 第2講座**
扇町健康大学
扇町商店街
- 第3講座**
プレハバ・ママ講座
ー赤ちゃんから学ぼう！
いずも子育て支援センター
川跡コミュニケーションセンター
- 第4講座**
子そだて・孫そだて今むかし
島根県立大学出雲キャンパス103講義室
- 第5講座**
アロマで心と身体のリフレッシュ Part.9
島根県立大学出雲キャンパス215講義室
- 第6講座**
意思決定の心理学
島根県立大学出雲キャンパス217講義室
- 第7講座**
「地域医療活動に携わって
隠岐地域からのメッセージ」(仮題)
島根県立大学出雲キャンパス大講義室
- 第8講座**
出雲市健康づくり推進員研修会
出雲市役所くにびき大ホール
湖陵コミュニケーションセンター
ひらた健康福祉センター
まめなが一番館(斐川)

受講料 無料



講座番号	場所	開催日時	講師	対象及び募集人数
	出雲市健康づくり推進員研修会 出雲市健康増進課との連携講座			
①4/21 (月) 13:30~16:00 14:00~16:00	出雲市役所くにびき大ホール	齋藤茂子	第1回 地域の健康づくり、健康づくり推進員に期待すること(齋藤茂子) 地域ぐるみで健康づくりを推進するために健康づくり推進員の役割を理解しましょう。 (お申込み先:出雲市役所本庁 TEL:0853-21-6979)	対象及び募集人数
②6/18 (水) 14:00~16:00	湖陵コミュニケーションセンター	平野文子	第2回 がんの基本的な知識とがん予防について(平野文子) がん予防の基本的な知識を学び健康づくり推進員として地区での活動方法を学びます。 (お申込み先:出雲市役所湖陵支所 TEL:0853-43-1215)	出雲市健康づくり推進員 130名程度
③7/12 (土) 14:00~16:00	まめなが一番館(斐川)	山下一也	第3回 メタボリックシンドローム・生活習慣病予防について(山下一也) メタボリックシンドロームについての理解を深め、健康診査の結果の見方と予防改善について学びます。また健康診査受診率アップなど、地区での活動にどう活かすか一緒に考えます。 (お申込み先:出雲市役所平田支所 TEL:0853663-5780)	
④9/7 (日) 14:00~16:00	まめなが一番館(斐川)	石橋照子	第4回 うつ・アルコールについて(石橋照子) 地域ぐるみで心の健康づくりを進めていくために疾病の理解と地区での対応の仕方について学びます。 (お申込み先:出雲市役所斐川支所 TEL:0853-73-9112)	

お申し込み方法

「ハガキ」「電話」「電子メール」にてお申し込みください。申込み締切りは各講座とも開催前日の2週間前です。
【必要事項】 ①氏名 ②住所 ③連絡先(電話番号等) ④希望講座名 ⑤車イスの使用希望の有無

お申込み方法
〒693-8550 島根県出雲市西林木町151 島根県立大学出雲キャンパス
電話番号 0853-20-0220 E-mail:kango@izm.u-shimane.ac.jp

案内図

至大社 国道431号 至平田 川跡駅 斐川

●一畑電鉄
 「川跡駅」下車……徒歩3分
 ●川跡駅へは
 「電鉄出雲市駅」から…10分
 「松江温泉駅」から…40分
 「雲州田原駅」から…10分
 「出雲大社前駅」から…10分

島根県立大学 出雲キャンパス

THE UNIVERSITY OF SHIMANE
島根県立大学 出雲キャンパス

*単独講座で受講できます。*各講座の受付は、開始時間の30分前から行います。

平成26年度 公開講座 (開催日時順)

講座番号	開催日時	講師	講座名及び講座内容	対象及び募集人数	
第1講座 いずも子育て支援センター (在園中) 同参加者限定	① 5/24 (土) 10:00~11:30	和田由佳 石橋祐美	笑いヨガ体験会 「笑いヨガ」は、誰にでもできる楽しい健康体操です。一度体験すると健康と活力を実感できます。最近「笑ってない」と感じている人、ストレスがたまっている人、健康にいつも笑っていたい人、運動不足の人など、ぜひ笑いヨガを体験してみませんか。 参加費:100円(資料・お茶代) 当日は動きやすい服装・靴でお越しください。 (あすてらす会場にご参加の方は上履き用の靴をご持参ください。) お子様連れでも構いません。	一般 20名	
	② 9/5 (金) 19:00~20:30				
	第2講座 扇町商店街	① 5/24 (土) 9:00~10:00	山下一也	扇町健康大学 出雲市商工会議所との連携講座 扇町商店街の空き店舗を活用し、出前公開講座を実施します。商店街に出かけたついでに立ち寄って参加してみませんか。 講座の内容は血圧測定・体操の後、ゲスト講師による健康に関する講話を聞いていただきます。 その後は、ハーブティなどでリラックスタイムしながらちよっとおしゃべり(健康相談)を楽しんでいただきます。	一般 10~20名 (6回出席できる方)
		② 6/28 (土) 9:00~10:00	山下一也		
		③ 7/12 (土) 9:00~10:00	林健司		
		④ 7/26 (土) 9:00~10:00	井上千晶		
⑤ 8/9 (土) 9:00~10:00	松本玄智江				
⑥ 8/23 (土) 9:00~10:00	山下一也 松本玄智江				
第3講座 いずも子育て支援センター 川跡川ミニライオンセンター	① 7/6 (日) 10:00~12:00	長島玲子 井上千晶 多々納憂子	プレバママ講座 一赤ちゃん先生から学ぼう!妊娠・出産・子育て—くすのきプラーザーとの連携講座 初めての出産の前は、赤ちゃんを迎える喜びと共に不安もいっぱい。そんなプレバママが安心して出産育児を迎えられるよう、赤ちゃんが「先生」になって教えてくれる講座です。 講話と実技30分(安産のために夫婦で取り組む生活の工夫、ベビータンツ)の後は、「赤ちゃん先生」とご両親と交流し、先輩の体験談を聞いたり、抱っこやおむつ交換の体験をさせてもらいます。 「赤ちゃん先生」が「不安」を「笑顔」に変えてくれる講座です。 (連絡先:くすのきプラーザー TEL:08559-22-2055)	初めて親になる 妊婦さんご夫婦、 2~3カ月の 乳児と両親 一般 妊婦さんご夫婦 5~6組、 乳児とご両親 5~10組	
	② 11/16 (日) 10:00~12:00				

講座番号	開催日時	講師	講座名及び講座内容	対象及び募集人数
第4講座 103 演習室	① 8/23 (土) 10:00~12:00	濱村美和子 狩野鈴子 藤田小矢香 嘉藤恵	子そで・孫そでと今むかし お産・子育てに対する方法や考え方は時代とともに変わってきています。 最近の方法や考え方を学んで、妊娠・出産・子育て、孫育てをしていく中で、お互いに戸惑われることのないよう楽しい子育て、孫育てをめざしましょう。 その他お産ののりきり方の方のコツ、赤ちゃんのお風呂の入れ方も練習してみよう。 子育て、孫育てをしている方、またはこれからさらされる方ならごなだめどうぞ。	子育てする方、 子育てを手伝う方 (孫育てをする方) 15名
	② 1/24 (土) 10:00~12:00			
	③ 9/13 (土) 10:00~12:00	松本玄智江 嘉藤恵	アロマで心と身体のリフレッシュ Part.9 生活の中にアロマセラピーを取り入れ、心と身体をリフレッシュする方法と一緒に学びましょう。 第1回:アロマを楽しむための基礎知識について トピックス:カモミールとミント 第2回:精油を使った小物作りにチャレンジ(材料費:200円) 第3回:精油を使ったマッサージにチャレンジ(材料費:200円)	一般 20名 (3回出席できる方)
第5講座 215 講義室	① 9/27 (土) 10:00~12:00			
	③ 10/11 (土) 10:00~12:00			
第6講座 217 講義室	① 10/18 (土) 10:30~12:00	橋本由里	意思決定の心理学 われわれは、日常生活におけるさまざまな場面意思決定をしなければなりません。本講座では、事例をもとに意思決定に関する理論やプロセスを概説し、「選択」とは何か考える機会を提供します。	一般 50名程度
	② 7/2 (水) 13:10~14:40	隠岐広域連合立 隠岐島前病院 院長 白石吉彦	「地域医療活動に携わって 隠岐地域からのメッセージ」(仮題) 「保健医療福祉の連携」や「地域包括ケアシステムの構築」といわれる昨今において、地域の特性を重視した救急→医療→介護→予防活動をつなぐ多職種と連携した具体的な地域医療のあり方について学びます。	出雲キャンパス 学生・教職員、 一般・ 医療従事者 300名



NEAR センター市民研究員の募集 及び NEAR センター交流懇談の集いの開催について

島根県立大学では、平成26年度「北東アジア地域研究センター市民研究員」を募集しています。

「北東アジア地域研究センター市民研究員」制度は、本学の北東アジア地域研究センター（NEAR センター）の研究活動に広く一般市民の参加を求め、地域の研究者や有識者との連携を強化することにより、NEAR センターの研究活動の活性化並びに大学院教育の充実を図ることを目的として、平成18年度に創設したもので、全国的にも例のないユニークな制度です。また、研究を通じて本学の地域貢献活動の一翼も担っていただいております。

平成23年度から新たに、市民研究員代表委員を中心とした「市民研究員グループ・リサーチ・サロン（※裏面参照）」をスタートさせ、市民研究員主体の交流・研究活動の場として生まれ変わりました。

この「北東アジア地域研究センター市民研究員」の概要等を説明させていただくことを主旨として、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成26年4月19日（土） 13:00～17:00
*平成26年5月10日（土）13:00～17:00に第2回を予定しています。
第1回に参加出来なかった方もご参加できます。
2. 場 所 島根県立大学交流センター 1階 研修室
3. 内 容（予定）
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）についての概要説明
北東アジア地域研究センター（NEAR センター）市民研究員制度説明
参加者の自己紹介
前年度市民研究員登録者の体験談
4. その他 入場無料
参加申込書による申込が必要です。

本内容については本学ホームページにも掲載しています。

以上

市民研究員グループ・リサーチ・サロンについて

「市民研究員グループ・リサーチ・サロン」は、市民研究員が主体となって複数の研究グループを組織し、関連する領域の共同研究や情報交換、NEAR 研究員・大学院生と密度の濃い学術交流を行うための集いです。

その活動内容は、市民研究員の皆さんの協議によって様々に形作られることと思いますが、概ね次のような流れで進行していくことを想定しています。

まず、5月17日（土）開催の全体会で自らの関心分野を考慮しつつ、2つ程度のテーマを掲げるグループ（「北東アジア地域の歴史と文化」「北東アジア地域の現在の課題」の2グループを想定）に分かれます。なお、このグループ分けは厳格なものではなく、以後の参加にあたっては移動・かけ持ちを行ってよいものとします。また、大学院生との共同研究を希望される方は、全体会に必ずご出席ください。

次に、市民研究員代表委員を中心に、それぞれのグループが展開する活動内容や集会の日程など研究計画を協議します。たとえば、各グループのテーマに即し、何らかの課題を設定した上での共同研究、個人の研究発表を中心とする研究会、共通の関心を探るための読書会、NEAR 研究員や院生を巻き込む形の勉強会など、自由に構想していただきます。また、各グループの集会場所として休日にも利用可能な2ヶ所（「北東アジア学創成室」「NEAR センター研究交流室」）を用意していますので、各グループの都合に合わせて、定期的に会合を行うことが可能です。

こうしてグループごとの活動内容を練りながら、1月の市民研究員による研究報告会を一つの成果報告の場として目指し、約半年間の活動を行っていただきます。

このグループ・リサーチ・サロンの活動は昨年度からの試みであり、これまでになかった市民研究員の皆さんの横のつながりと、NEAR 研究員・院生との有機的な連携が発揮され、創造性豊かな活動が展開されるものと期待しております。

北東アジア地域研究センター市民研究員のイメージ

北東アジアに興味あり

市民の皆さん

地域の研究に興味あり

NEARセンター市民研究員

市民研究員に登録すると...

- ・市民研究員全体会参加
- ・グループ・リサーチ・サロン参加
- ・NEARセンターの各種研究会参加
- ・メディアセンター(図書館)利用
- ・学内刊行物各種贈呈
- ・研究成果を年度末報告書に掲載などの機会をご提供

NEARセンター 市民研究員

市民研究員は何をするの？

- ⇒研究・交流活動を展開します
- ☆市民研究員全体会、グループ・リサーチ・サロンに参加ください
 - ☆市民研究員相互に、またNEARセンター研究員や本学教員、大学院生たちと北東アジアや地域の課題などを話題に気軽に語り合しましょう



交流懇談の集い
(26年度は2回開催予定:
第1回 H26.4.19/第2回 H26.5.10)

全体会(H26.5.17)
* 共同研究希望者は必ず参加ください
(26年度は計3回の開催を予定)



大学院生



NEARセンター
研究員・教員

**院生・研究員・教員と
関心分野で意気投合！**

**共同研究グループ
を作ってください**

**6月9日までに共同研究計画
書をご提出ください**

選考・採択

共同研究経費の一部を助成します

フィールドワークや
文献調査

たとえば、
この助成金で
グループで活動

北東アジア地域へ
研究調査

**市民研究員が相互に
関心分野で意気投合！**

2つのサロン(研究グループ)で
共同研究？勉強会？読書会？
茶話会？.....etc.

グループ・リサーチ・サロン

研究資金獲得の助走	地域への政策提言	個人研究の深化	成果発表会	年次報告書
-----------	----------	---------	-------	-------

連携

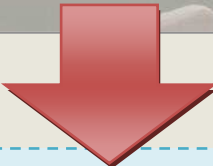
☆共同研究グループには市民研究員の中から共同研究に参画していただき市民の立場からの知識を院生に与えることで、大学院教育にご協力頂きます。今年度末(3月)に共同研究の成果をご報告頂きます。
(グループ構成:市民研究員+院生+研究員・教員)

☆各研究グループには、今年度末(1月)に活動の成果をご報告頂きます。また、この際には従来通り個人の発表も受け付けます。

市民研究員グループ・リサーチ・サロン



市民研究員



グループ・リサーチ・サロン



北東アジア地域の歴史と文化

【例】 史資料（古文書）発掘・解読、北東アジアの言語、宗教など



北東アジア地域の現在的課題

【例】 北東アジア諸国の経済関係・企業活動・外交・環境問題・福祉・人的交流など

大学院生と市民研究員の共同研究



研究・活動成果

研究資金 獲得の助走	個人研究の 深化	地域への 政策提言	成果報告会	年次報告書
---------------	-------------	--------------	-------	-------

地域とともに発展を目指す“開かれた研究機関”
“NEAR センター交流懇談の集い”

北東アジア地域研究センター(NEARセンター)
市民研究員制度

みなさんの興味と知識を通じて研究センターで交流しませんか？
市民研究員にぜひご登録ください。

4/19 “第1回 NEAR センター交流懇談の集い”

まずは市民の仲間、大学院生、NEAR センター研究員、
本学教員と懇談。
ぜひ、御参加下さい。

5/10 “第2回 NEAR センター交流懇談の集い”

さらに市民の仲間、大学院生、NEAR センター研究員、
本学教員と懇談を深めてください。
ぜひ、続いて御参加下さい。

北東アジア地域研究センター(NEARセンター)
第1回全体会“グループ・リサーチ・サロン”

5/17 開催(共同研究ご希望の方は必ずご参加ください)

2つのサロン(研究グループ)で共同研究?勉強会?読書会?...。
市民研究員・大学院生・教員と共同研究に取り組むこともあります。

「北東アジア地域研究センター市民研究員制度」のご説明をかねて、“NEAR センター交流懇談の集い”を下記の通り開催いたします。

記

○とき 第1回 2014年4月19日(土) 13:00~
第2回 2014年5月10日(土) 13:00~

○ところ 島根県立大学交流センター 1階 研修室

○次第 NEAR センター長挨拶、NEAR センター概要・市民研究員制度説明、
参加者自己紹介、市民研究員の体験談など

*第1回は12:00から昼食会を行います。(会費¥1,000 当日頂きます)ご参加ください。

○お問い合わせ 〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
島根県立大学事務局企画調整室

TEL. 0855(24)2201; FAX. 0855(24)2208; E-Mail:kikaku@admin.u-shimane.ac.jp

●島根県立大学北東アジア地域研究センター

第1回 NEAR センター交流懇談の集い 参加申込書

(以下の事項にご記入の上、郵送または FAX にてお送りください。)

※なお、準備の都合上、**4月16日(水)**までにお願いたします。

住所・電話番号・E-Mail アドレスを除くお名前、あなたの興味、取り組んでみたい研究については「第1回 NEAR センター交流懇談の集い」の際に参加者の皆様に資料として配布することとしていきますので、あらかじめご了承ください。

・第1回 NEAR センター交流懇談の集いに参加します。

お名前

ご住所 (〒 -)

電話番号：

E-Mail：

昼食会 (会費¥1,000円) 参加する 参加しない

北東アジアや島根県、山陰地方に関するあなたの興味をご自由にお書きください。

上記に関し取り組んでみたい研究をお持ちの方はご自由にお書きください。

第2回 NEAR センター交流懇談の集い 参加申込書

(以下の事項にご記入の上、郵送または FAX にてお送りください。)

※なお、準備の都合上、**5月7日(水)**までにお願ひいたします。

住所・電話番号・E-Mail アドレスを除くお名前、あなたの興味、取り組んでみたい研究については「NEAR センター交流懇談の集い」の際に参加者の皆様に資料として配布することとして
いますので、あらかじめご了承ください。

第2回 NEAR センター交流懇談の集いに参加します。

お名前

ご住所 (〒 -)

電話番号 :

E-Mail :

北東アジアや島根県、山陰地方に関するあなたの興味をご自由にお書きください。
(第1回 NEAR センター交流懇談の集いに参加されない方はご記入ください)

上記に関し取り組んでみたい研究をお持ちの方はご自由にお書きください
(第1回 NEAR センター交流懇談の集いに参加されない方はご記入ください)

資料提供：平成 26 年 4 月 3 日
担当：浜田キャンパス
国際交流課 佐草 利博
TEL 0855-25-9063

平成 25 年度国際交流報告書について

この度、本学各キャンパスで実施している国際交流事業等にかかる報告書を作成しました。

この報告書は、今年度初めて作成したもので、本年度実施した様々な国際交流事業の様子を紹介しています。

主な内容：

- ・ 海外大学との交流協定の締結
- ・ 日本語日本文化研修受け入れ事業
- ・ 内閣府国際交流事業への学生派遣
- ・ 海外企業研修(インド、韓国)
- ・ 国際合同シンポジウム
- ・ 異文化理解研修(中国、韓国、ロシア、アメリカ)



平成 25 年度

国際交流報告書



年間行事

全キャンパス



月	日付	国	内容	ページ
4	4/26		交流協定の締結（韓国・培材大学校）	1
	6/20~7/22		韓国・蔚山大学校日本語日本文化研修	2, 3
	8/ 2~25		韓国・培材大学校サマースクールに参加	4
	2/4		交流協定の締結（韓国・大邱韓医大学校）	4
	2/13		内閣府国際交流事業	5
	3/1~3/10		本田雄一学長訪米	6
	2/23~3/1 3/9~3/14		海外企業研修	7

浜田キャンパス


月	日付	国	内容	ページ
5	5/ 2		極東ロシアの今を知る公開セミナーを開催	8
	5/23		タイから学生が来学	8
6	6/ 5		ミネソタ州立大学モアヘッド校から三田高敬先生が来学	9
7	7/ 5		復旦大学国際問題研究院合同国際シンポジウム	9
	7/24		アメリカ留学壮行会の開催	10
8	8/26~28		中国・寧夏大学から学生が来学	10
	8/1~8/30		異文化理解研修（ロシア・ウラジオストク）	11
	8/3~8/31		異文化理解研修（中国・北京）	11

月	日付	国	内容	ページ
8	8/4~9/2		異文化理解研修（アメリカ・モントレール）	12
	8/4~8/28		異文化理解研修（韓国・蔚山）	12
	8/25		ロシア極東連邦大学訪問	13
9	9/19		東北師範大学訪問	13
10	10/30		太平洋諸国から学生が来学	14
11	11/14~15		島根国際学術シンポジウム 2013	15
12	12/18		第13回 国際文化交流のタベ	16,17
	12/19		イーストカロライナ大学交流シンポジウム	18
2	2/1~14	 	冬期日本語・日本文化研修 2014	19,20
	2/14		北京シンポジウム	21
	2/4~3/21		異文化理解研修（ハワイ）	21

出雲キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
8	8/20~8/31		異文化理解研修（アメリカ）	22
	8/20~8/25		異文化理解研修（韓国）	23

松江キャンパス

月	日付	国	内容	ページ
8	8/6~8/19		海外語学研修（サマープログラム）	24

本学では、短期海外留学や留学、海外からの留学生の受け入れ、その留学生と本学学生との日常的な交流など、国際人としての素養を身につける幅広い取り組みを行っています。

交流協定 全キャンパス

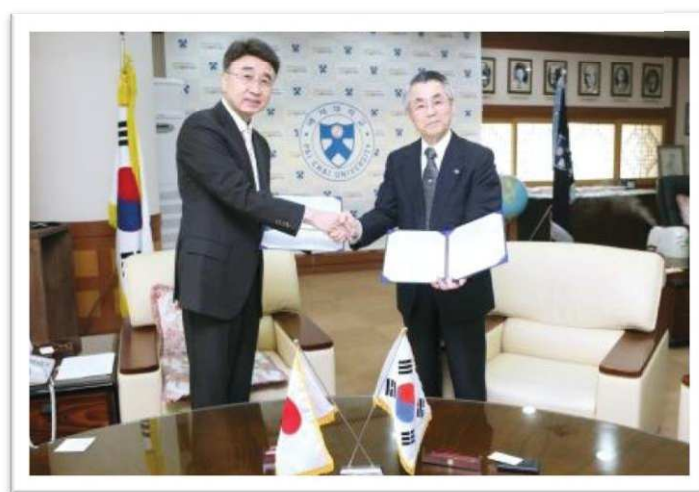
交流協定の締結（韓国・培材大学校）

平成25年4月26日に、韓国培材大学校と交流協定を締結しました。

大田（デジョン）広域市にある培材大学校は、1885年にアメリカ人宣教師アベンゼラーによって設立された私立の総合大学です。

1992年に設立された韓国語教育院があり、現在までに30カ国600人以上の韓国語・韓国文化を履修した留学生を輩出しています。

毎年7,8月には全世界から200名程度を受け入れるサマースクール(2~3週間)を開催しています。



韓国・蔚山大学校日本語日本文化研修

蔚山（うるさん）大学校の学生 20 名が平成 25 年 6 月 20 日から 7 月 22 日までの約 1 カ月間本学に滞在しました。

	<p>【日本語授業】</p> <p>日本語授業では、日本の学生とお互いの文化を紹介したり、自分のことを話たりしながら、会話のロールプレイをしました。</p>
	<p>【日本文化授業（石見神楽）】</p> <p>西村社中代表 日高 均さんを講師として迎え、石見神楽について学びました。初めてみる道具や衣装に興味津々でした。</p>
	<p>【島根県東部視察研修（島根県立大学松江キャンパス）】</p> <p>松江キャンパスの授業に参加し、学生と一緒に松江市内を巡るウォーキングツアーを行いました。視察後は、振り返りを行い、グループごとに発表しました。</p>
	<p>【小学生との交流】</p> <p>浜田市立有福小学校の全校生徒 13 人と〇×ゲームをしたり、おにごっこをしたりして、たくさん遊びました。そのあとは、みんなで仲良く昼食を食べました。</p>
	<p>【韓国語教室訪問】</p> <p>浜田市内で韓国語を勉強されている市民の皆さんと、教室の方の手作りキムチやジュースをいただきながら、交流を深めました。</p>
	<p>【成果発表会】</p> <p>4チームに分かれ、日本の学生と一緒に一カ月にわたったフィールドワークや研究での成果を発表しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの考える6次産業のビジョン 2. 韓国の地域資源の活用 3. 自動車会社の環境への取り組み 4. 現代チーム～現代自動車の社会貢献～
	<p>【送別会】</p> <p>お世話になったホストファミリーや先生方、チューターなど多くの参加がありました。研修生からはお礼にダンスが披露され、特別ゲストとして本学マスコットキャラクター『オロリン』が登場し、更に盛り上がりました。出発の朝には、たくさんの先生・職員・ホストファミリーの見送りがありました。</p>

【日程】

6/20	本学到着
6/21	開講式、学長表敬、浜田市長表敬
6/24~27	日本語授業、サークル交流
6/28	津和野町視察
6/29,30	ホームステイ
7/1,2	日本語授業、日本文化授業（石見神楽）
7/4,5	日本語授業、小学校との交流（有福小学校）
7/10~12	島根県東部視察研修（島根県立大学松江キャンパス）
7/13	大田市視察
7/16~18	日本語授業、韓国語教室訪問（浜田公民館）
7/19	成果発表会、閉講式、送別会
7/22	本学出発

【蔚山研修生からの感想】 ※研修生の言葉を原文に近い形で掲載しております。

- ◇いつも優しく、面倒を見て下さって、韓国に帰るまで元気でいられました。それに、私たちと一緒に勉強したり、遊んだりした友達にも心から感謝しています。もっと遊んで話して仲良くなりたかったです。今はとても寂しいです……。出来るなら留学したいです。
- ◇一ヶ月間、みなさん私たちに親切にしてくださって、本当にありがとうございました。皆さんの笑顔とここの夕日が忘れられそうにないです。韓国に帰っても思い出しそうです。
- ◇研修が終わるのが信じられないほど、時間が過ぎるのを早く感じました。私は、島根県立大学で日本語に自信がつかえました。徹底して準備されている研修計画で一カ月を送ることができて、とても嬉しいです。
- ◇振り返れば心残りが無いわけではないけれど、毎日反省しながら自分なりに頑張ったと思います。分からなかったことが沢山分かり、さらに多くの課題を見つけることができました。これからの勉強の道標になると思います。日本や韓国のことについて深く考える機会になったし、人との交流という側面でも、自分にとってとても意味のある時間になりました。
私たちのために頑張ってくれた素敵な研修にしてくださった皆さんに、心から感謝します。色々お世話になりました。とても楽しくて有意義な一カ月をありがとうございました。
- ◇島根県立大学の配慮で無事に研修を終えました。このいい思い出は死ぬ時まで絶対に忘れないです。ありがとうございました。

韓国・培材大学校サマースクールに参加

平成 25 年 8 月 5 日から約 20 日間、培材大学校で実施する、世界各国の大学から約 200 名の学生が参加する大規模なサマースクールに参加しました。韓国語の勉強と韓国文化を体験します。本学からは、浜田キャンパス 2 名、松江キャンパスから 2 名の学生が参加しました。



▲チムジルバン(健康ランド)



▲韓国語授業



▲韓国伝統遊び体験



▲テコンドー



▲ロッテワールド



▲ラフティング

交流協定の締結（韓国・大邱韓医大学校）

平成 26 年 2 月 4 日に、韓国・大邱韓医大学校と交流協定を締結しました。

大邱韓医大学校は、大邱広域市壽城区（1 キャンパス）と慶尚北道慶山市（2 キャンパス）にキャンパスがある総合大学です。

8 月に実施した島根県立大学出雲キャンパスの異文化理解研修では、看護学科の学生との交流を行ったり、平成 26 年 2 月の冬期日本語・日本文化研修において 1 名の学生を本学で受け入れました。



内閣府青年国際交流事業

国際化の進む社会で活躍できる青年の育成を目指すため、日本と世界各国の青年の交流を通じて、相互理解を深め、広い国際的視野と国際協調の精神を養う機会を提供する事業です。

事業内容には、国際青年育成交流、日本・韓国青年親善交流、東南アジア青年の船などがあります。

本学3キャンパスの学生が積極的に参加しています。

【報告会・説明会の様子】2/13



【壮行式の様子】8/20



【現地での様子】カンボジア：9/6～9/23、韓国：9/3～9/17



本田雄一学長訪米

平成 26 年 3 月 3 日から 3 月 10 日までの日程で本田学長がアメリカの、Wenatchee valley college (WVC)、Central Washington University (CWU)、University of Hawaii at Manoa (UHM) の 3 大学を訪問しました。

WVC (4 日訪問) ではジム・リチャードソン学長を始め大学幹部と面会し、学生派遣協定の締結を行い今後の交流事業について意見交換しました。

CWU (5 日訪問) ではマリリン・レビーン副学長やマイケル・ローナス国際センター長など国際交流を担当する大学幹部と面会し、交流事業に関する意見交換や本学の日本語・日本文化短期研修プログラムの紹介をしました。また、留学中の本学学生 4 名 (うち 1 名は松江 C 卒業生) と面会して留學生活の報告を受け、学長が激励の言葉をかけました。

UHM (7 日訪問) では、アンディ・サットン国際交流部長やジョエル・ウィーバーHELP 所長などと面会し、本学と UHM との交流に関する協議を進めていくことを確認しました。また、今年度から実施している UHM での異文化理解研修に参加中の学生 15 名とも面会し、研修の報告を受け、翌 8 日は学長と学生が交流する機会を持ちました。



▲WVC との協定調印の様子▲



▲CWU 大学幹部との面会



▲留学生との交流



▲UHM の国際交流担当者との協議



▲異文化理解研修中の学生との面会

海外企業研修

インド・韓国の企業や大学を訪問し、それぞれの国の経済状況を肌で感じ、学生との交流を通じて、自分の将来を考えるきっかけとしました。また、平成26年度に新設予定のタイの事前視察を行いました。

【インドコース】

期間 平成26年2月23日から3月1日

参加 学生15名、引率者5名

訪問先 5企業・4大学



【大韓民国コース】

期間 平成26年3月9日～3月14日

参加 学生5名、引率4名

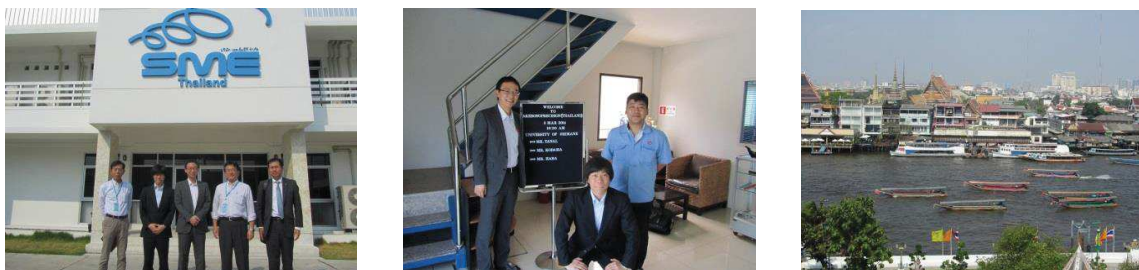
訪問先 8企業、1大学



【タイ事前視察】

期間 平成26年3月4日～3月7日

訪問先 4企業



極東ロシアの今を知る公開セミナーを開催

平成 25 年 5 月 2 日に、浜田港ロシア貿易拡大プロジェクト実行委員会の招きにより、ロシア沿海地方議会議長 ヴィクトル・ゴルチャコフ氏が本学コンベンションホールで公開セミナーを行いました。



タイから学生が来学

平成 25 年 5 月 23 日に、三重大学に留学中のタイ・タマサート大学の学生と、広島日本語学校で学んでいるタイの学生 14 名の訪問がありました。「実践中小企業・ベンチャー経営論」の授業を聴講したり、本学学生との交流を行いました。



ミネソタ州立大学モアヘッド校から 三田高敬先生が来学

平成 25 年 6 月 5 日にミネソタ州立大学モアヘッド校言語文化学部長三田高敬先生が来学し、留学説明会を実施しました。8月からミネソタ州立大学モアヘッド校へ2名の本学学生が留学しています。



復旦大学国際問題研究院・島根県立大学 合同国際シンポジウム

平成 25 年 7 月 5 日（金）島根県立大学交流センター2階コンベンションホールにおいて、「北東アジアにおける中国の役割」「朝鮮半島をめぐる新たな動向」「北東アジアにおける経済協力」という3つのセッションを通して、島根県立大学と復旦大学国際関係学院が有する知識と知見を交換し、〈北東アジア協力の新課題〉にどう向き合っていくのかについて理解を深めました。

復旦大学国際問題研究院及び本学からそれぞれ3名の研究者が報告を行い、各セッション毎にコメンテーターとのディスカッションや質疑応答も行いました。

当日は、地域の皆様をはじめ本学の在学生・教職員など約200名が集い、熱心に聴講されました。



アメリカ留学壮行会の開催

平成25年7月24日に、アメリカの協定校へ派遣留学する学生の壮行会を開催しました。壮行会では、学長から激励の言葉、海外留学奨学金授与、学生の決意表明がありました。今年度は、ミネソタ州立大学モアヘッド校へ2名、セントラルワシントン大学へ3名、計5名の学生を送り出しました。



▲壮行会の様子



←現地にて
【ミネソタ州立大学モアヘッド校言語文化学部長の三田先生(中央)と一緒に】



←現地にて
【留学生向けオリエンテーション】

中国・寧夏大学から学生が来学

平成25年8月26日～28日に、中国西北部に位置する寧夏回族自治区の寧夏大学外国語学院日本語学科から研修生10名と副院長が、日本寧夏友好交流協会の招きにより来学し、本学の学生と交流しました。



異文化理解研修（ロシア・ウラジオストク）

研修先：ロシア海洋国立大学

研修期間：平成 25 年 8 月 1 日（出発日）～8 月 31 日（帰国日）

参加学生：2 名

研修内容：

- (1) 語学学習時間：4 時間／1 日（実用ロシア語（会話、文法、読解））
- (2) 地域文化学習：ロシアの文化（音楽、言語と文化、生活習慣等）、ロシア映画鑑賞、演劇鑑賞等
- (3) 現地見学・課外授業：ルスキー島（2012 年 APEC 開催）、博物館見学等



異文化理解研修（中国・北京）

研修先：北京外国語大学

研修日程：平成 25 年 8 月 3 日（出発日）～8 月 31 日（帰国日）

参加学生：7 名

研修内容：

- (1) 語学学習時間：4 時間／1 日
- (2) 地域文化学習：中国の歴史文化と現代社会に関すること
- (3) 現地見学・イベント：万里の長城、故宮、天壇講演、和園、京劇観劇など



異文化理解研修（アメリカ・モンレー）

研修先：モンレー国際大学

研修期間：平成 25 年 8 月 3 日（出発日）～ 9 月 2 日（帰国日）

参加学生：22 名

研修内容：

- （1）語学学習時間：5 時間／1 日（4 週間）
- （2）地域文化学習：アメリカ文化入門、時事問題、コミュニティ体験など
- （3）現地見学・イベント：サンフランシスコ観光、ビーチパーティなど



異文化理解研修（韓国・蔚山）

研修先：蔚山大学校

研修期間：平成 25 年 8 月 4 日（出発日）～ 28 日（帰国日）

参加学生：24 名

研修内容：

- （1）語学学習時間：6 時間／1 日（午前 9:00-12:00／午後 14:00-17:00）
- （2）地域文化学習：韓国の文化（オンギ体験、韓国料理、テコンドーなど）
- （3）現地見学・課外活動：蔚山見学、慶州見学
- （4）ソウルツアー：5 日間（独立記念館、DMZ ツアー、ロッテワールドなど）



ロシア極東連邦大学を訪問

平成25年8月25日に、小林明子留学生センター長と事務局職員がロシア極東連邦大学を訪問しました。双方の大学の学生交流の発展をテーマに会談し、今後の学生交流プログラムについて、有意義な協議をすることができました。



東北師範大学訪問

平成25年9月19日に、NEARセンター研究員等9名が中国吉林省の東北師範大学東アジア文明研究センターを訪問し、学術交流に関する協定を締結しました。

東北師範大学東アジア文明研究センターの韓東育センター長と李曉東センター長による調印の後、両センターの研究員によるシンポジウムも開催されました。学術交流協定においては、両センター間の学術交流を一層強化するため、代表団の相互訪問等に積極的に取り組んでゆくこととしています。



太平洋諸国から学生が来学

平成 25 年 10 月 30 日に、太平洋諸国（ミクロネシア連邦・フィジー共和国・マーシャル諸島共和国・パラオ共和国・ニウエ）の学生が公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）の招きにより来学しました。英語授業に参加したり、本学学生との交流を行いました。



▲学長表敬



▲キャンパスツアー



▲授業の参加



▲昼食交流会



▲石見神楽授業



▲学生交流



▲茶道体験



▲記念撮影

島根国際学術シンポジウム 2013

平成 25 年 11 月 14 日（木）～15 日（金）にかけて、島根県立大学講堂において「北東アジアの地域交流－古代から現代、そして未来へ」と題して国際シンポジウムを開催致しました。国内外からお招きした 11 名の研究者及び本学教員 7 名による研究成果の報告やディスカッション等が活発に行われ、多彩な内容となりました。

シンポジウムには、地域の皆様をはじめ本学の在学生・教職員など 2 日間で延べ約 250 名が集い、熱心に聴講されました。



▲第1セッション：古代神話の世界と北東アジア交流



▲記念講演：宇野重昭 島根県立大学 名誉学長



▲第2セッション：鎖国時代の北東アジア交流



▲第3セッション：北東アジア接壌地域の歴史と現状



▲第4セッション：現代～未来のアジア太平洋交流



▲会場の様子

第13回 国際文化交流の夕べ

平成25年12月18日（水）に第13回国際文化交流の夕べを開催しました。今年、第1部のメインゲストに「地域の音楽家」を迎え、華やかなオペラの世界を中心としたステージを行いました。また、学生や留学生による歌・ダンス・ゲームなど、大学生と地域の皆さまとの交流を深めました。

当日は約200名の方にご来場いただき、大盛況となりました。

第1部前半—学生団体によるパフォーマンス



▲吹奏楽部



▲本田雄一学長 挨拶



▲中国語サークル 好好



▲ダンス部



▲情熱人～ガチんちゅ



▲学生による司会

第1部後半—地域の音楽家による演奏



▲柿谷美雪さん



▲竹永久男さん（特別出演）



▲小林紘子さん



▲公演の様子

イルミネーション点灯式



▲大学職員によるハンドベル演奏



▲みんなでカウントダウン

第2部



▲赤坂一念学部長 乾杯



▲YOSAKOI「橙蘭」



▲ジェスチャーゲーム



▲読み聞かせ「ゆるりの会」



▲留学生の歌



▲留学生のダンス

幹事長から一言

この度開催されました、第13回国際文化交流の夕べは、『咲かせよう文化の花、広めよう交流の種』をテーマに、学生・留学生・地域が一体となって当日を迎えました。

学生有志による幹事会メンバーは、当日に向けて夏から準備をして参りました。企画構成や出演団体とのやりとりなど、時間と作業に追われ辛い日々もありましたが、その分達成感も大きなものでした。

企画を進めていく上で最も難しい課題となったのは、今回のテーマでもある、外国文化をどのように伝え、どのように交流を深めていくかでしたが乗り越えることができたと思います。

また、全てを終えて振り返った感想や反省を来年に生かし、さらに皆様に喜ばれる会にして参りますので、第14回国際文化交流の夕べにもご期待ください！

最後になりましたが、ご来場・ご協力いただいた皆様に幹事会一同、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



▲第13回国際文化交流の夕べ幹事会メンバー

第13回 国際文化交流の夕べ 幹事長 黒木大輔（2年）

イーストカロライナ大学交流シンポジウム

平成 25 年 12 月 19 日に、島根県立大学・イーストカロライナ大学交流シンポジウムを開催しました。

このシンポジウムでは、平成 24 年に本学と交流協定を締結した米国・イーストカロライナ大学の協力を得て、最新のテクノロジーを使った異文化能力と外国語能力の育成の方法を提案しました。



▲ビデオ会議を使った国際協同授業のデモンストレーション



▲英単語学習法デモンストレーション



▲「アメリカ人学生から見た日本人イメージの変化」
イーストカロライナ大学 ジェイミー・レボヴィッツ教授



▲「学生の学習動機を高める戦略」
イーストカロライナ大学マリオン・エプラー教授



▲質疑応答



▲会場の様子

冬期日本語・日本文化研修 2014

平成 26 年 2 月 1 日から 2 月 14 日までの 2 週間、ロシア海洋国立大学（ウラジオストク市）、大邱韓医大学校、啓明大学校（韓国大邱広域市）から計 10 名の学生を受け入れ、「島根県立大学 冬期日本語・日本文化研修」を実施しました。

この研修は今年度から新たに実施した事業で、研修生が本学で日本語学習と日本文化の体験をしながら、本学と地域を知り、学生や地域の人たちとの交流を促進することを目的としています。

			
【開講式】	【寮生との交流】	【昼食交流会】	【学生交流】
			
【歓迎会】	【神楽鑑賞】	【日本語授業】	【茶道体験】
			
【石見神楽授業】	【広島視察】	【出雲視察】	【江津(風の国)視察】
			
【松江視察研修】		【しまね国際センターでの研修】	
			
【美川小学校訪問】	【閉講式】	【和木公民館訪問】	【見送り】

【日程】

2/1	本学到着
2/2	学生交流
2/3	開講式、学長表敬、日本語授業
2/4~7	日本語授業、サークル交流、日本文化授業（石見神楽）
2/8	広島市視察
2/9	出雲市視察
2/10	松江市視察
2/11	日本語授業、料理交流会
2/12	日本文化体験
2/13	小学校訪問（美川小学校）
2/14	成果発表会、閉講式、送別会
2/15	本学出発

【研修生からの感想】 ※研修生の言葉を原文に近い形で掲載しております。

◇私はまた戻ってきたいが、時間がかかると思います。すべての人と多くの思い出を作ることができました。ありがとうございました。

◇我々のお世話をしてくださった先生と職員の皆さんに対して感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます！日本人の学生にもありがとうございます！私たちの日本語が不十分で、学生たちに迷惑をかけたと思います。忘れられない印象がたくさん残りました。

あまりにも楽しくて、いい友達も出来て、別れるのはとても寂しかったです。ウラジオストク市にぜひお越しください！また会いましょう！

◇プログラムを主催した皆さん、日本語を教えてくださいました皆さん、家族のためお土産を選ぶのを手伝った皆さん、どうもありがとうございました。素晴らしいお世話と一人一人への注目、ありがとうございます。旅行、見学、絵と箸作り、お土産作り等の素晴らしいプログラムを作ってください、ありがとうございます！ロシアについて発表の機会をいただき、ありがとうございます！島根県立大学へもう一度行って、日本の文化を知り、日本語能力を磨きたいチャンスがあれば嬉しいです。

◇島根県立大学の先生、職員、学生に感謝の気持ちを表したいです。皆さんが理解深く、いつも我々の支援、お世話をしました。我々に関してもいい印象が残っただろうか。全てのことは気に入りました。島根県にもう一度行ってみたいと思いました。

北京大学との合同国際シンポジウム

『中国式発展の独自性と普遍性－「中国模式」の提起をめぐって－』

平成 26 年 2 月 14 日（金）、島根県立大学交流センター2 階コンベンションホールにおいて、本学と北京大学国際関係学院との合同国際シンポジウムを開催致しました。北京大学国際関係学院の研究者をはじめ、国内外の 9 名の研究者による講演・報告が行われました。また、各セッションではディスカッション・質疑応答が活発に行われました。

シンポジウムには、地域の皆様をはじめ本学の在学生・教職員など約 50 名の来場がありました。



▲第 1 セッション：
中国における国家と市民社会



▲第 2 セッション：
市民経済と格差



▲第 3 セッション：
共振する中国と社会国家

異文化理解研修（アメリカ・ハワイ）

研 修 先：ハワイ大学

研 修 期 間：平成 25 年 2 月 22 日（出発日）～3 月 23 日（帰国日）

参加人数：15 名

研 修 内 容：

- (1) 語学学習時間：3 時間／1 日（実用英語：会話、文法、読解）
- (2) 地域文化学習：ハワイの文化（音楽、言語と文化、生活習慣等）
- (3) 現地見学・課外授業

見学予定先：Polynesian Cultural Center, Iolani Palace, Hawaii Plantation Village, Japanese Cultural Center, Pearl Harbor 等



異文化理解研修（アメリカ）

出雲キャンパスでは平成8年からアメリカワシントン州にあるウェナチー・バレー大学とシアトル大学での研修を実施しています。今年度は2年次生13名が平成25年8月20日から8月31日まで研修に参加し、アメリカの看護や文化を体験しました。

	<p>【ESL（英会話）授業風景】</p> <p>ESLではウェナチー・バレー大学専任教員による講義のほかに、ファーマーズマーケットでの英会話実践や、医療をテーマにした英語の寸劇を行い、語学力を身につけました。</p>
	<p>【ウェナチー・バレー大学、シアトル大学 看護学部見学】</p> <p>研修先のウェナチー・バレー大学とシアトル大学の看護学部を見学しました。実習室には成人から幼児のシミュレーションモデルがあり、汗をかいたり表情が変わるなど、出雲キャンパスに設置されているシミュレーションモデルよりも高性能であることに驚きました。</p>
	<p>【医療機関見学】</p> <p>総合病院や高齢者福祉施設、救急車運営会社など、様々な医療機関を見学しました。ウェナチー・バレー・メディカルセンターには通訳機能のついたベッドがあり、多民族国家アメリカを象徴していました。</p>
	<p>【看護学生との交流】</p> <p>ウェナチー・バレー大学の看護学生と交流昼食会を行い、日米の医療事情等について意見交換を行いました。アメリカの看護学生は社会経験を積んでから看護師を志す方が多いと聞き、看護学生のモチベーションの高さに学生たちも刺激を受けました。</p>
	<p>【ホームステイ】</p> <p>2泊3日でホームステイを行い、アメリカの人々の日常生活を体験しました。ホストファミリーと過ごした時間は学生にとって一生忘れられない思い出となり、帰国後もメール等で交流を続けています。</p>

異文化理解研修（韓国）

出雲キャンパスでは今年度より韓国での異文化理解研修が始まり、1年次生7名と2年次生5名が平成25年8月20日から8月25日まで、韓国大邱広域市にある啓明大学校と大邱韓医大学校での研修に参加しました。

	<p>【啓明大学校見学】</p> <p>研修先の啓明大学校を見学し、構内にある韓国の伝統的な建物や附属博物館等の施設を見学しました。国際交流ラウンジでは啓明大学の学生が留学生のサポートを行っている様子等を説明していただきました。</p>
	<p>【ドンサンメディカルセンター見学】</p> <p>啓明大学校附属病院（ドンサンメディカルセンター）を見学しました。皮膚科にはSPAが併設され、術後の皮膚のケアに韓方やホットストーン等を用いて自然治癒力を高めています。</p>
	<p>【大邱韓医大学校附属病院見学】</p> <p>鍼・灸を用いた治療の説明を受けた後、院内にある韓方薬の薬剤室や韓医体験センターを見学しました。韓医体験センターでは学生も鍼治療体験をさせていただきました。</p>
	<p>【看護学生との交流】</p> <p>啓明大学校と大邱韓医大学校の看護学生と交流し、互いの学生生活や文化について語り合いました。韓国では看護師の社会的地位が高く、両校には韓国全土から優秀な学生が集まるとあって、みなさんととても英語が堪能でした。</p>
	<p>【慶州観光】</p> <p>慶尚北道慶州市を訪れ、国立博物館や天馬塚、仏国寺などを見学し、新羅時代の歴史や文化を学びました。慶州は日本の京都・奈良のような歴史ある土地で、韓国の方々の心のふるさとです。</p>

参加学生の感想

・今回の研修での驚きは、1つに韓国の看護学生の知的水準や社会的地位の高さ、そして積極性でした。（中略）いずれの見学施設を訪れても、歓迎の横断幕やボードで私たち一行を出迎えてくださり、非常に友好的に接してくださいました。日本を発つ前にテレビやインターネットで流れていた竹島問題や反日といったニュースがまるで嘘のようでした。ただし、そうした一面もあることを忘れないでいることが、より円滑にコミュニケーションを行う上で欠かせないと感じました。

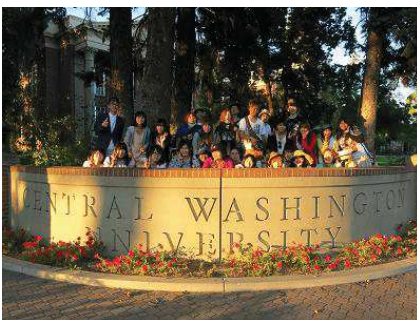
～異文化理解研修（韓国）報告書より抜粋～

海外語学研修（サマープログラム）

松江キャンパスでは、ワシントン州立セントラルワシントン大学と協力協定を1990年6月に締結し、交流を進めています。海外語学研修（サマープログラム）は、夏休みを利用して約2週間CWUに滞在し、語学研修や見学旅行を実施するプログラムで、毎年多くの学生が参加しています。平成25年度は8月6日から19日の14日間実施されました。



【8月6日】シアトル到着後滝を見に



【8月6日】CWU到着、記念撮影



【8月8日】企業訪問



【8月9日】ヤキマ川下り



【8月11日】大リーグ観戦



【8月12日】学長主催のティーパーティー



【8月14日】BBQの様子



【8月15日】乗馬体験



【8月16日】お別れ夕食会

- 今回の研修で、人と人との繋がりを感じたり、国境を越えて仲良くなれたりしたことは、とてもいい経験だった。この研修で学んだこと、感じたことをこれからの生活で活かしていきたい。
- これからも日本以外のたくさんの国に行ってみたくて思いました。まだまだ自分の目でさまざまな国を見ていきたいです。
- 研修を通して日本の素晴らしいところにも気づきました。いろんな国の文化を教えてもらうだけでなくこちらからも教えてあげられる人になりたいです。そのために日本のことについても勉強しようと思います。

～帰国後提出の報告書から抜粋～

島根県立大学
平成 25 年度 国際交流報告書

平成 26 年 3 月発行

編集・発行
島根県立大学 国際交流課

〒697-0016 島根県浜田市野原町 2433-2
TEL:0855-25-9063 FAX:0855-24-2208
E-MAIL : kokusai@admin.u-shimane.ac.jp

平成26年4月10日

島根県立大学短期大学部(松江キャンパス)

しまね地域共生センター(担当:鳴尾)

電話 0852-28-8322

【資料8】

しまね地域共生センターオープニング記念講演会について

このたび、本学松江キャンパス内に設置した、しまね地域共生センターのオープニングを記念する講演会を下記のとおり開催いたしますのでご案内いたします。

記

1. 日時 平成26年5月14日(水) 13:30～16:00
2. 会場 島根県立大学短期大学部 松江キャンパス 大講義室
3. 内容等
 - 13:30～ ・学長挨拶
 - 13:45～ ・概要説明
 - 14:00～ ・記念講演
講演者: 玄田有史^{げんだゆうじ}氏(東京大学・教授(島根県出身))
演題: 希望のしまね、しまねの希望
 - 15:10～ ・鼎談:
玄田有史 氏
本田雄一 学長
小泉 凡 教授(しまね地域共生センター長)
4. その他 詳細は別紙案内チラシをご覧ください



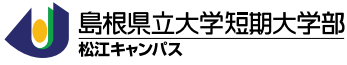
島根県立大学短期大学部
松江キャンパス



島根県立大学
マスコット
キャラクター
オロリン

しまね 地域共生センター

Shimane Center for Enrichment through Community,
The University of Shimane Junior College



主催・お問い合わせ
島根県立大学短期大学部 松江キャンパス
しまね地域共生センター
〒690-0044 島根県松江市浜乃木7-24-2
Tel: 0852-28-8322 Fax: 0852-28-8366



2014年
5月14日(水)

13:30—16:00
島根県立大学
短期大学部
松江キャンパス
大講義室

参加無料
要申込

希望の しまね、

- 2005年から希望と社会の関係を考える「希望学」という研究仲間たちと続けてきた。そのなかで、みてきたことがある。一つが、過去に挫折や試練といった困難を経験し、それをぐり抜けてきた人ほど、希望を持っている事実だ。.....
- 島根には、いいところがたくさんある。希望もある。しかし、挫折や試練も、少なからずあるはずだ。大事なのは、そんな困難を希望につなげていくことだ。そのためのヒントを、みなさんといっしょに考えたい。.....

希望の しまね

講師

東京大学社会科学研究所教授

玄田有史

Genda Yuji

げんだ・ゆうじ.....東東京大学社会科学研究所教授、博士(経済学)。専攻は労働経済学。島根県出身。東京大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科第II種博士課程退学。ハーバード大学客員研究員、オックスフォード大学客員研究員、学習院大学経済学部教授を経て現職。.....
主な著書:『仕事のなかの曖昧な不安——揺れる若年の現在』(中央公論新社、サントリー学芸賞、日経・経済図書文化賞)、『ジョブ・クリエイション』(日本経済新聞社、労働関係図書優秀賞、エコノミスト賞)、『希望のつくり方』(岩波新書)、『増補改訂 14歳からの仕事道』(イーストプレス)、『孤立無業(SNEP)』(日本経済新聞社)など。.....



